

烏帽子会會報

2010年秋号 Vol.49



2011年1月4日開院の新診療棟（手前は五ヶ村池、奥は油山）

- 国試に関する座談会 6 p
- 研究奨励賞論文抄録 14 p
- 研究奨励賞、在外研究援助金募集 17・27 p
- 教授就任挨拶（永田、志村、小林） 28 p
- 烏帽子会賞受賞の言葉 36 p
- 医学部同窓会諸表 46 p

福岡大学医学部同窓会

目 次

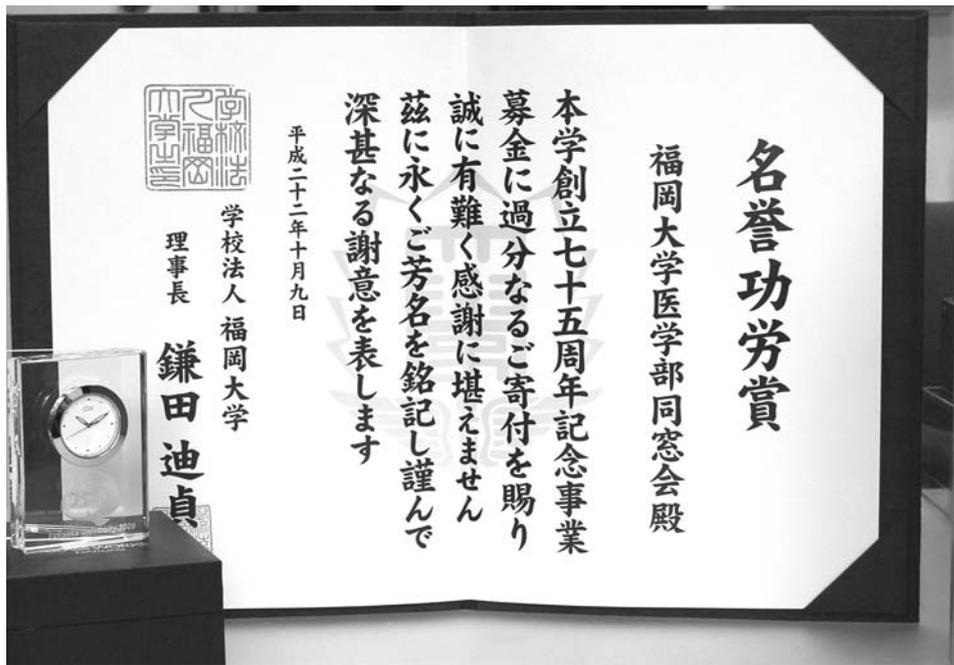
・福岡大学創立 75 周年記念事業募金寄付者顕彰式	朔 啓二郎	3
・総会報告		
第 29 回烏帽子会総会報告	飯 田 武 史	4
・国試に関する座談会		6
・第 15 期理事・監事名簿		12
・事務局連絡		12
・研究奨励賞		
平成 22 年度研究奨励賞選考報告	朔 啓二郎	13
・平成 22 年度授賞論文抄録・研究報告		
High-mobility group box 1 is involved in the initial events of early loss of transplanted islets in mice.(論文)	松 岡 信 秀	14
High-mobility group box 1 is involved in the initial events of early loss of transplanted islets in mice.(論文)	伊 東 威	14
小細胞肺癌の網羅的遺伝子解析による予後因子の解明(計画)	濱 中 和嘉子	15
Safety and efficacy of anti-hypertensive therapy with add-on angiotensin II type 1 receptor blocker after successful coronary stent implantation(論文)	杉 原 充	16
新規マウス慢性感染創モデルを用いたバイオフィルム形成と慢性創傷の関係についての研究(計画)	大 山 拓 人	17
・平成 23 年度研究奨励賞募集		17
・平成 21 年度評議員会議事録		18
・在外研究援助金受給者報告		
ピッツバーグ大学に入学して	前 山 彰	24
デンマークにおける脳死肝臓移植の実際	山 本 希 治	25
意外と楽しいスウェーデン留学生生活	井 上 浩 利	26
在外研究報告書	木 山 貴 彦	27
・在外研究援助金受給者名簿		27
在外研究援助金募集		27
・教授就任挨拶		
教授就任挨拶	永 田 忍 彦	28
教授就任挨拶	志 村 英 生	29
教授就任挨拶	小 林 邦 久	30
・学生対策報告		31
・会員寄稿		
ボストンの日本人医師コミュニティ～移植医療との異分野連携研究～	三 原 誠	33
移植医療の新しい一歩～移植法改正後、初の脳死肝移植を経験して～	三 原 誠	33
・キャンパスだより		35
烏帽子会受賞者名簿		35
烏帽子会賞を受賞して	松 本 徳 彦	36
九山、西医体を終えて	竹 山 文 徳	36
主管優勝!!	杉 本 一 樹	37
準硬式野球	鈴 木 正 弘	38
ゴルフ愛好会	山 田 祐 莉 子	38
九山初優勝	石 川 真 史	39
16 年ぶりの優勝カップ奪還!!	大 山 かほり	40
西医体優勝によせて	児 玉 英 也	41
西医体を終えて	前 田 奈々恵	41
西日本医科学学生体育大会バドミントン部門個人戦ダブルス第 3 位を達成して	中 川 丞 子	42
	莖 田 美佳子	42
・計 報		
終生歯科心身医療を問われた都温彦名誉教授	喜久田 利 浩	43
送る言葉 我々の恩師、都温彦先生へ	竹 下 盛 重	45
・医学部同窓会諸表		46
・医局長・医長名簿		49
・教育職員人事		50
・平成 23 年 医学部医学科入学試験の要点		50
・正会員 75 周年寄付情報		51～55
・編集後記		裏表紙

福岡大学創立 75 周年記念事業募金寄付者顕彰式 名誉功劳賞（福岡大学医学部同窓会）

烏帽子会 副会長 朔 啓二郎（1 回生）

3 年間にわたる私たちの寄付活動における顕彰式が、平成 22 年 10 月 9 日、大学文系センター 15 階で行われました。各業界の方や個人での高額寄付者に対し行われたもので、鎌田理事長、衛藤学長による挨拶の後、顕彰式がありました。総額 10 億 2,271 万円の寄付が集まったとのこと、医学部卒業生がその 10% の 1 億 2,000 万円以上を集めたことに

対し、医学部同窓会は「名誉功劳賞」をいただきました。高木会長不在のため、私が代理で出席しました。長谷川伸一先生（2 回生）、松本直樹先生（3 回生）、吉水一郎先生（22 回生）がご出席でしたが、いずれも高額寄付者で、大学より顕彰されました。私たちが以前より声高に「寄付の歴史を作りたい」と言っていたのですが、歴史は作られたと思います。



総会報告

第29回烏帽子会総会報告

第29回烏帽子会総会を成功させる会 会長 飯田 武史 (夫婦石病院院長・13回生)

今年は例年以上に残暑きびしく、体調管理が難しいと感じられた会員の方が多かったのではないのでしょうか。今後の皆様のご多幸とご健勝を祈念しています。

さて、同窓会事務局よりさる7月10日の烏帽子会総会の報告をするように依頼がありましたので、乱筆ではありますが報告させていただきます。

第29回烏帽子会総会および懇親会を7月10日17時よりホテルニューオータニで行いました。忙しい中特別会員6名を含む総勢147名に参加をいただきまして、誠にありがとうございました。烏帽子会総会はほぼ予定どおりに無事終えることができました。また引き続き行われた天野周一先生による講演では夫婦生活の基本を認識させられましたが、私にとっては少々耳の痛い話でした。予定よりやや遅れて懇親会となり、高木会長および特別会員の瓦林副学長、黒木医学部長のごあいさつの後、福岡大学医学部同窓会研究奨励賞受賞者の表彰を朔選考委員長よりいただきました。残念ながら受賞者のうち参加できなかった方の代理を安波先生にいただきました。

内藤病院長による乾杯の後当番学年である13回生学生時代のなつかしい写真がスクリーンに次々と映し出されている中歓談が続きました。懇親会は最後に次回当番学年である14回生の代表である城島先生に同窓会旗の引継ぎを行い、参加者全員で肩を組んで輪となり校歌斉唱をして閉会となりました。

当日13回生は53名の出席でしたが、諸事情により参加費だけの参加者も加えると卒業者数の7割の参加がありました。関東、関西からの出席もあり2次会での盛り上がりは大変なもので卒後20年以來の再会を皆で楽しみました。昨年秋の成功させる会の発足より13回生の福岡在住の有志で準備をしてきましたが、当日は大きなトラブルもなく無事終えることができました。これも池田静夫同窓会事務局局長始め事務局の皆様と高木会長を始め諸先輩方のご助言とご協力があったことでした。文面上で失礼ではありますが、成功させる会の代表としてお礼を述べさせていただきます。また来年以降も宜しく願いいたします。以上簡単ではありますが、第29回烏帽子会総会報告とさせていただきます。



幹事の先生方



総会の様子



総会会長 飯田武史先生



瓦林副学長のごあいさつ



黒木医学部長のごあいさつ



講演会講師 天野周一氏 (全国亭主関白協会 会長)



研究奨励賞表彰



医学祭実行委員長より挨拶



内藤病院長による乾杯



懇親会の様子



14 回生への幹事引継ぎ

座談会

国試に関する座談会

◇開催日時 平成22年10月20日
◇出席者 黒木医学部長、出石教授、朔教授、
大慈弥教授、竹下教授、松永教授
高木同窓会会長、重田同窓会副会長、
池田同窓会事務局長

司会 松永教授

本日はお集まりいただきありがとうございます。今年の医師国家試験の結果に対し、同窓会も学部も対策を講じなければと考えているところです。同じ思いを持っているもの同志、目的は同じですので、良くなる方向性のご意見を聞かせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。私自身が国試対策委員長ですし、竹下教授が今年の主副担です。当事者の皆さんに集まっていただきました。まず原因を整理し、その後対策についての考えをお聞かせいただきます。

黒木医学部長

今年は悪かったとのご指摘、そのとおりです。しかし振り返って見ると、福大の中で極端に悪かったということではなく、良かったり悪かったりの繰り返しが起きています。私はこれを平均的に上位に持っていくことが重要だと思っています。今年の反省だけではなく長期的に対策しないとイケません。今年悪かったから来年良くすることは簡単です。卒業判定の足切りを上げればいいのですから。今までは、その繰り返してきています。

今までに同窓会の意見を学部が聞くことをもっと早くから行われていたら、いろいろな協力を得ることができて良かったらと思います。これは最初に申し上げたいことです。

では具体的に何をしていくかとなると、二通り考えないとイケないと思います。一つは、教員サイド。つまり教育システムを含めて教える側の問題です。もう一つは学生側の問題で、学生をただふるいにかけているだけではだめで、学生をどのように勉強させるかが大きな問題です。

松永教授

教育システムまで考えると長期的なことになると思いますが。僕が担当している国試対策は付け焼き刃的政策です。必要ではあるけども、何%の効果があるかと言うと数%しかない。しかしやらないよりはよいと考えています。同窓生から見ると合格率は気になることです。当面私は関係しているので要望には答えるよう努力したいと思っています。かなり一生懸命にやっていますが、やり方に対して限界を感じています。

黒木医学部長

1点だけ確認したいのですが、同窓会の皆さんは合格率を上げてほしいとよく言われていますが、一番上げたいのが我々です。そこを誤解しないようにしていただきたい。我々は決して試験結果が悪くて構わないとは思っておりません。

松永教授

私も教える立場ですが、教員側としては、目先の合格率よりも一人一人の学生に対して卒業させた方がいいのかどうか悩みます。学費もばかにならないし、ここで切ってしまうとあと2年位かかるという学生も出てきます。そういう場合にはどうしても斟酌が入ってきます。教員としては卒業判定を甘めの状況にもっていく傾向にあるように思います。

出石教授

波がありますよね。同じようにやっても良い時と悪い時もありますから。

黒木医学部長

朔先生や、松永先生が厳しくと言われることはよく分かります。今年悪かったから来年良くするために卒業判定を思いきって切ろうということはすぐできます。そこを厳しくと言われる時には、そのことで学生がより真剣に長期的に勉強してくれるということを期待したものでないといけないと思います。厳しくすることで次の学年もその次の学年もよい結果を残してくれないと意味がありません。ということは卒業だけでなく低学年での進級も大事なのです。はっきり言いますが、自分が担当する科目でこの学生は進級させていいかどうかを見抜いてほしいのです。「この学生は進級させていけない」との成績が教授会に出されれば、そのようにできます。しかし最終的にそれぞれの先生は甘く判断されて出てきます。

松永教授

厳しく判定していない先生方には何か原因があるように思います。

大慈弥教授

進級させてはいけない学生をあげているのですか？

黒木医学部長

そうです。あげています。

松永教授

何故なのですか？

黒木医学部長

先生達の判断です。

松永教授

それを何とかしないとイケないのでないですか？

黒木医学部長

そのことを皆さんにお願いしているのです。また、全国医学部長病院長会議のグランドデザインで2年生と4年生で医師不適格の進路変更を積極的に考えていきましようという提案があります。2年生は通過したが、4年生で臨床に進む時にこの学生は向かない、無理だという場合には提案どおりにやる必要があります。我々の制度でも同一学年で2年留年したら一旦退学させることができます。しかし本当にやる気のある学生はまた戻って来られるシステムですし、最初から完全に追い出すわけではありません。ですから6年生のところで切れ切れと言うのではなくて早い段階

で対処してほしいと思っています。

松永教授

もちろんそうですが、卒業判定も厳しくしないといけないと思います。

竹下教授

僕は3年で教えていますし、落としてもいます。国試は4年までの実力がそのまま反映されます。福大はいつも下位三分の一のところにいる。せめて真ん中の塊の中に入れないといけない。大切なことは4年生までの教育と5年の時に手を抜かないことです。5年時の重要性を重々分らせるべきだと思います。医学の勉強を非常に甘く見ている学生がいます。また早くから臨床教育をとり入れるとモチベーションが上がるのではないかと思います。2年生の基礎の勉強は自分達も負担でしたが、今の学生も負担なのではないでしょうか?もし可能ならば気持ちが高ぶる臨床講義や研修を入れられたらどうかと思います。

松永教授

確かにそうです。2年生や3年生は何のためにこれを行っているのかわからないと思います。臨床を見ると繋がっていることが分かるので違うと思います。

黒木医学部長

本当はそれをやるのがチュートリアルだったはずなのです。ところが我々がチュートリアルを始めた時に基礎の科目で臨床に興味がわくような具体的な課題を作れませんでした。その結果、どちらかというと2年生、3年生の教員側が対応できなくてチュートリアルを縮小することになりました。その後CBT等が始まりましたから、その問題を利用しています。当時はCBTもなかったし、習っていることに興味を持たせる基礎科目のチュートリアルをさせられなかったのです。結局教える教員側も学生側も面白くなく正規の教科書に書いてあることを中心に自分達で議論するだけになってしまいました。本当は、自分達が今習っていることが如何に臨床的に大事かを2年、3年で分かって講義に出ましようというのがチュートリアルの目的であるべきなのです。

出石教授

低学年からしっかり評価をして簡単に進級させないことが重要です。1年生と2年生の成績が相関しますし、2年生と3年生も同様です。1年生の成績が6年生の成績へ繋がっています。1年生の成績を見ると6年生までに何回か留年するだろうと分かります。1年生は臨床の勉強をしていませんが教養の成績で分かります。逆に全く関係しないのが入学試験の成績です。これはどこの大学でも同じ結果が出ています。1年生の時分かるのでその時に集中的に担任の先生や副担の先生や科目の先生が細やかに見てあげる時間ができたら、きっと回復できると思います。しかし時間がない、忙しい、なかなか会えない状況です。1年生のカリキュラムの中に専門的教育科目を少しずつ入れてはいますが、なかなか全学的な了解は得られません。今でも医学科は厳しい、自由度が足りない、大学ではないとかなり厳しい意見です。それでも1年生のカリキュラムは結構空いています。福大の学生には甘さがはびこっていると思い

ます。危機感が殆ど無く、どうにかなると考えている学生がいっぱい来て、先生方にも切羽詰まった様子もない。その甘さは長い伝統でしょう。

黒木医学部長

以前のように、試験前にグループで集まって勉強したらよい面もあると思いますが、日々少しずつ準備しておくことが大事です。今でも、部活のあと毎晩飲み会をしている愛好会があります。練習場所が近くにないのも理由の1つですが、遠い所で練習をしたあと帰ってきて飲み会や食事会をしています。ですから日々ノートの整理をするという習慣を持たない学生がいます。また、友達がいない学生も問題です。そういうところを根本的に改善しない限り、良い年があったけどすぐ悪くなるという繰り返しをしてしまうと思います。

松永教授

ではどうしたら変えられますか?

出石教授

もう一つは学年毎の特徴があり、良いリーダーがいて引っ張ってくれる学年は成績も良い。そういう人を作らないとダメなんです。

松永教授

それに頼るわけにはいかないでしょう。

黒木医学部長

私も良いリーダーがいたらということに頼る時代ではないように思います。我々が作った世の中ですが、携帯電話やPCによるネットサーフィンが浸透していますので、自己中心の世界に入っている学生が沢山います。これは学生側だけではなく大人の責任ですが、そういう人達にグループ学習でやりましようと言ってもなじめないわけで、そういう学生が問題なのです。だからグループリーダーが引っぱるといっても、全体的にはよいかもかもしれませんが、我々が問題にしないでいけないのは、グループ学習になじめない、部活に入っていない、友達がいない学生達をどうするかということだと思います。

松永教授

問題提起をいただきましたが、解決策が難しいですね。

出石教授

教員の方も教育への意識を強く持つことが必要でしょう。6~7年前には学内にその雰囲気がありました。チュートリアルの導入や、OSCE、CBTが始まった時期は教育への意欲が感じられましたが、それが少なくなってきました。学生のアンケートを見ると先生方から「邪魔だ」などと言われてしまったという意見もあります。

松永教授

「邪魔」と言われるのはBSLの時ですか?

出石教授

いいえ、何に対してもです。質問に対してもです。忙しい時には「忙しいからいつつ来てね」と答えられたらよいでしょうが、ただ忙しいと言われた学生はもう行きたくないですよ。

黒木医学部長

この時期になると、毎日のように授業改善を目的とした学

生による授業アンケート評価が届きます。私はアンケートに1人が指摘していたら裏に10人同じ考えを持った人がいるという思いで取り組んでいます。先生は毎年同じ講義をしていますが、学生は殆どが初めて聞く内容です。パワーポイントスライドでいくらよい講義をしても、学生が家に帰って勉強する時や試験前に利用できる資料を与えないと意味がありません。アンケートには「いいスライドをたくさん見せてもらったけど白黒のプリントを配ってもらっては何の役にもたちません」と書いてあります。また、「誰々先生の講義は非常に良い」というものもありますが、「プリントの内容が見にくい」とか「英語のプリントで講義される先生に改善してほしい」という内容もあります。毎年のことですから本人は読まれているはずですが、しかし同じことを繰り返しています。一方、しっかり勉強している学生は「この分野を教えていない」とか「こういうところが福大は弱いのでしっかり教えてほしい」などの要望を出しています。学生は必死に信号を出していますので、最初にお話した教員側の問題として努力していくべきです。

近年、全学部でFD(教育の方法と内容の改善)をやりたいと言われています。教育ワークショップを開催したり、授業評価アンケートを取って改善につなげることです。私は福大に来て33年目になりますが、医学部では早くから今でいうFD活動をしており、30年近く前からホテルやセミナーハウスに泊り込んで西園先生を中心にやっていました。これがとても不思議でしたので、最近、私の前任で元学部長の松岡先生に「なぜ医学部は30年近くも前から今でいうFDに相当する教育ワークショップなどをやっていたのですか」と聞いてみました。すると、「福大医学部ができたとき学生教育や国家試験対策をどうしたらよいか分からない者が多かった。そしていざ国家試験に臨んだら散々な結果だった。そこで皆で集まって、歴史ある大学にどういう講義をしているのか、どういう国試対策をしているのか、勉強に行こうということから始まった」ということで、それを聞きなるとどう思いました。

松永教授

あの頃は良くなっていたのですよね。

黒木医学部長

そうです。良くなって国試合格率80%台は維持するようになりました。そして良い時は90%台に乗るけど悪い時は70%台に落ちるの繰り返しで、90%台を維持できない状態が続いています。私が言いたいのは、当時に返ってこれから10%確実に上げる方法を教員側が考えないといけないということです。ある科目の中で教え方がまずい先生がいたら、そのところは学生が自分で勉強しないといけなくなります。しかし、今は非常に範囲が広く内容も深いから、学生さんが自分で勉強して全て分かるという時代ではありません。各科目を担当する先生が分かりやすく丁寧に教え、あとで勉強できる資料を与えるということを徹底的にやってから学生に勉強をさせる、その上で判定を厳しくすることをしないといけないと考えています。主任教授は学生のアンケートを読んで知っているはずで、各担当の先生を指導してほし

いと思います。

重田副会長

先日の理事会で、今回の座談会について話し合いを行い意見をまとめてみました。今皆さんが話されたことと同じような内容になるのですが、つまり進級を厳しくしたら国家試験は何とかなる。しかし毎年進級を厳しくしたら国家試験は良くなるというところで議論がストップしてしまい、その繰り返しで毎年一喜一憂しているだけではないかというものでした。そこで、今後何が必要かということ話し合ってみました。それは毎年毎年の反省と総括をし、それを公表し次年度に生かすという、地道な努力を繰り返すしかないのではないか。今まで学内にそういう組織とか伝統がなかったように感じるというものでした。

先ほど出石先生が言われましたが、この話しを続けると最後には福大の学生論になるんです。福大生は甘い。医師になる人間としての自覚が足りない、レベルが低い、だから国家試験の結果が悪いのだと。福大の場合でも100人学生がいれば成績上位20番くらいまでの学生はほっておいても国家試験に合格するでしょう。福大での教育目的は、少なくとも国家試験に関していえばそれ以下の中間層から下位の学生に対していかにモチベーションをもたせ将来良い医者になるための基礎を作る教育をするかではないでしょうか。同窓会の人間として手前味噌にはなりますが、福大医学部の教育の成果は大きな意味ではすでに出ています。我々卒業生の姿が、そのまま福大での教育の成果ではないでしょうか。国立大学出身の人達とは違った意味での評価を外部では受けており、多くの卒業生が、多くの場面で活躍しています。良い医師になる素質は福大の学生は十分に持っていると思います。進級を厳しくするのは、国試合格率を上げるための一つの具体論にすぎないと思います。最終的に成績の悪い学生を受験させなければ合格率が上がるのは当たり前ですから。ましてや、学生の質に話が及ぶとなると教育の話にならないように思います。その前段階の問題が重要ではないかと思っておりましたところ、先ほどより医学部長から深い分析と問題提起がなされております。そういうことを一つ一つ具体的に実行していくことで、全体の底上げはかれるのではないのでしょうか。

もう一つ大切なことは、大学のスタッフの皆さんが研究、臨床、教育と大変忙しい日々を過ごしておられることは十分理解しておりますが、国家試験の問題は、教育の成果として大変重要な問題だと思います。出石先生をはじめ、こういう仕事(学生教育)に熱意と能力のある人を評価し、学内で育てていくことも大切なことではないのでしょうか。

朔教授

僕は教授会に入って10年経ちますが10年前と変わっていない。短期的にみても意味がない、長期的にみないといけないという話になります。6年生の卒業判定の時に必ず、この学生を救ってあげようではないかとなり、そう言われる先生方がとても自分に酔ってしまいます。先程話の中で、2年生、4年生の進級を厳しくと出しましたが、僕は6年でも厳しい判断をしていく必要があるだろうと思います。

短期的にやらない限り長期的には望めないというのが僕の考え方です。卒業試験において68点を取れば国家試験に合格できます。それを65点でいいのではないか、64点でいいのではないかと毎年行われている会話です。2年連続厳しくしたらそれなりに皆さん対応すると思います。長期的に考えても短期的なことを確実にやっていかないといけない。僕は今4年生の主任ですが、毎月事務からこの学生が何回講義をさぼったというデータが来ます。もう既に70数回講義をさぼった学生がいます。毎月さぼった学生を15人以上呼びつけて話をしていますが、さぼったからといって成績が悪いわけでもないです。朝起きれなかったという理由が一番多いですね。4年生ですから、中学や高校の同級生は就職活動で一生懸命になっている時期なのにまだクラブ活動をやっている、そんな状態ではないんじゃないか、もっと医学部の学生はプロフェッショナルな意識を持つべきではないかと話をしています。やはり2年生、4年生だけではなく6年生の卒業判定も厳しい態度で臨むべきだと思います。卒業判定の時のプリントに名前があると同情心が出てくるので、医学部長に名前を入れずに成績だけで卒業判定をしてほしいと提案して今そのようになっています。今年は特に悪かったので、松永先生が厳しいところで線引きすべきだと教授会で提案されていましたが、それに賛成する人は少なかったです。開業されている同窓会の先生方から言われるのが、国家試験の成績そのものが自分達の評価に繋がるということです。ここは短期的にも長期的にも良くしていかないといけないと思います。

大慈弥教授

先生のように一生懸命主任として学生へ対応してある学年は成績が上がっているのではないですか?なかなか教員はケアをしないですよね?

朔教授

いや、主任ははすると思いますよ。

松永教授

主任の先生にも温度差があります。担任制のやり方が機能しているかどうかは主任の先生の考え方にも依ると思います。又主任や副担任のマニュアルなどはないですよ?

出石教授

マニュアルはあり、教授会でも配っています。主任の仕事と副担任の仕事を分けて書いてあります。読んでない先生が多いかもしれません。主任のところへ出席状況や成績データが行きますから、主任が副担任に振り分けて学生指導をやってくれという指導をどれ位やるかです。

黒木医学部長

なかなか難しいです。しかも基礎系にはNon-MDの先生も多いですし、また臨床系では忙しいという実情があります。今年の春の卒業生の主任の先生には本当によくやっていただきました。学生のために時間を割き、担任会議も自分の部屋に集めて行われていました。ところがその学年がこういう結果だったわけです。制度がまずいのかもしませんが、担任の先生が本当に一生懸命面倒見られても

結果が悪いこともあり、我々にはそのジレンマがあります。

朔教授

学生にとって1年生2年生の時に医学や医療に対する臨場感がないのも原因の一つですね。病院へ顔を出すなどの臨場感がもう少しあると違うと思います。

出石教授

医者になりたいと思って来てない人がたくさんいます。親に言われて来てる状態ですね。

大慈弥教授

それは分かります。私も入る時はそうだったんでよくわかります。何故変わったかと言うと当時は進級が厳しく、上からどんどん1回生が落ちて来て、「これはいかん」とあれで尻に火が付いたところがありました。そういうことでもない限り学生は危機感を持ってないと思います。それと看護学科の先生方も言われてましたが、1年生の時に目標を失い腑抜けになると。最初にそこの意識を変えないといけないと思います。

竹下教授

いろいろな問題がありますが、一つ一つ押さえて10%ずつ上げて行くシステムを作らないといくら話をしても同じです。

松永教授

皆さん一生懸命やられていますが上手く行ってないですね。もっと早い時期からかなと思います。

大慈弥教授

卒業判定を厳しくすることも下の学年が見ています。

松永教授

ちゃんと見てます。進級が甘いかどうかすぐわかりますから。

朔教授

僕たちは入学143人位で、卒業が63人でした。それからしたら何十人厳しくしても前例があります。

黒木医学部長

それは昔の入学で水増しを取ってよかったころのことです。今は大学の自己点検・評価に対する大学基準協会からの認定評価で、すでに改善勧告の通達がきており、収容定員(入学定員)に対する在籍学生比率に制限がありますので大変です。

出石教授

5%を超えたらいけませんから(実際には1.05以上で勧告対象、1.10以上で私立大学等経常費補助の不交付)。

松永教授

でもまだ余裕があるでしょう?

出石教授

いいえ、一昨年1.05以上(633 / 600=1.055)で、大学基準協会から高すぎるという指摘を受けています。

黒木医学部長

だから卒業試験で簡単に絞ることはできないわけです。ただ、我々の制度では、1学年で2回留年したら退学になります。いろいろと指導しても勉強しない学生は大学を一旦去らせることだと思います。そうしなければ6年生までに沢

山の授業料を払ってもらうことになります。一昨年、6年生で最終的に退学させた学生がいます。12年間在籍卒業させることができなかった、あれは本当に苦しかったです。今の2年生から入学定員が110人になりましたから、明らかに学力が低下しています。2年生の科目担当者の何人かから「これまで通り採点評価にしたら10人、20人落ちますが、少し甘くしてあげるべきでしょうか」との問い合わせがきています。私は「それはしないでくれ」と答えています。そのような学生達は医者に向かない子ではないのです。勉強しないから向かないのです。勉強したら向いているかもしれないです。そういう子は一旦退学させて、それでも反省して頑張ろうという子には戻れるシステムですから、2年生から活用していくことが重要だと思います。

朔教授

そうですね、特に1回生は他の学部へ転科させる事もあってます。徹底してやらないといけない。ところが最近私学の先生と話したら東京の方の考え方だけど、保護者が、卒業だけしてくれたらいい、後は予備校があるからプロに頼めばいい、ターゲットは卒業だけで、そのことで裁判沙汰のようになる、そういう時代にもうなってきたらと思う。将来的にも福大は威厳を持って卒業判定をするべきだろうと思います。

大慈弥教授

一つ福大のデータで面白いのは新卒は悪いけど、落ちた学生は結構早く合格して全体の合格率がよいことです。1年、2年すれば皆合格していますね。

出石教授

殆どの国試浪人は1年で終わっている人が多いと思います。

朔教授

8割以上は大丈夫ですね。

出石教授

一番大事なこととして低学年をしっかりと育てていかないとこれからもっと大変な状態になると思います。

黒木医学部長

そこはそこできちんとやっていきます。国試対策委員の先生達にお願いしたいこととして、6年生では昨年のように卒業判定の後に気を抜くことがないよう、勉強しないということがないように見守っていただきたいということです。

松永教授

今年はそんなことはないと思います。勿論補講を組みます。学生へのアンケートも取り終えました。講義をしてほしい先生方を選んでもらって年内20コマ補講を行います。

黒木医学部長

厚生労働省が国試問題の作成を全国の先生に依頼するのですが、その際「各科で頻度の高い病気から出す」、「臨床実習をまともにやっている人が通るような問題を多くする」、「教科書的な内容よりも応用力のある問題を作る」という3点を基本にして頼んでいるということです。そうすると、今年眼科で出たような「この機械は何に使うか」とか「この機械で診断できる病気は何か」など実践に近い問題が各科で

増えることはあっても減ることはないと思います。

出石教授

厚生省の担当者が代わると問題の傾向も変わりますよ。今年は極端だと言ってました。問題に対するクレームもたくさんあり、今年の画像においてもクレームがありますね。

黒木医学部長

国家試験の問題は、合格後すぐに役立つような問題にしていかないといけないと思います。今後の傾向もそのような問題に流れていくと思います。そういうものを卒業試験後の補講でもらえたらどうかと思います。

松永教授

それは学部長が総括講義のされる前におっしゃいましたね。

黒木医学部長

言いました。一番びっくりし喜んだのは眼科の教授のご意見で、今年の問題を見て「こういう機械が出るなら、今後こんな機械も聞かれるかもしれない」と準備をしていると言っていたこと。そういう意識を多くの先生が持つて下さると、1問でも2問でも学生は取り組むことができます。1点、2点で国試を落ちる学生が毎年おられますから。

松永教授

今回の補講は、その話はポイントにしてなくて、今まで聞いた講義の中で希望する先生を中心にチョイスしています。実際にこの時期に沢山の講義をしても役に立たないので、ペースメーカーとして1日に1コマを基本にして長めにしようという主旨でやっています。去年は11コマでしたが、今年は20コマしようと思います。

黒木医学部長

それでいいと思います。去年は、卒業判定のあとホッと何もしない学生が多かったですから。

高木会長

お聞きしたいのですが、1年生は入学したら10人ずつの班に分けられます。それで6年生まで行くようです。同級生と話したことがないということ聞いて驚きました。10人でグループに分かれ1年生から6年生までグループ行動が多い為か、学年のまとまりや仲間意識の希薄さをクラブなど集まりの時に感じます。仲間で上と下が助け合う縦や横の連絡がないところに学年全体のパワーが弱くなっているようです。少なくとも医学部の同級生は誰でも知っている、性格のよい所も、なんでも知っているという関係を持てるチャンスは1年生か2年生の時に作り、次に横の繋がりを強くし、足腰を強くすることだと思います。我々の時にはドイツ語や医学概論等1つでも落としたら留年させられました。パーフェクトに通らなければならない、そのためボロボロ落ちてしまいました。1つの教科を落として留年したことがトラウマとなりひねくれてしまったということもありました。これはやり方が悪かっただけで、「厳しかった」という最初にできた伝統は間違っていないスタートのコンテンツだったと思います。しかし留年が増えて大変になった時に簡単に進級させるという最初の伝統を変えた時期から福大の伝統が緩んできたように思います。それが一番の失敗と考えます。あ

の時は前期と後期、追試に通ればいい、その他は自分の裁量権でいい、「お前達大人だろう」と言われ試験前は仲間全員で聞いて答えて教えてとにかく皆同級生同志で必死に勉強しました。そういうのが1つのパワーになっていったと思います。

黒木医学部長

グループの10人は固定されたものではないですね。各学年の実習によってメンバーを変えていますから、1年生の時のメンバーが固定されることはありません。

高木会長

同級生のチームワークはいいと思います。利口な奴が分からん奴を教える。我々の代では啓二郎(朔教授)から習う、林(林教授)に聞く。「分からん奴は啓二郎(朔教授)に習え、啓二郎何で知っとうとや?」と言いながら100人が100人に聞いて仲間が全員性格も全て分かっていた。そういう連帯感がフランクなキャラクターで入って来た子ども達(福大生達)には生まれると思います。そして甘さと懐の深さの特性を上手に使うと福大独特のやる気生まれると思いますし、そこに教育の技術の醍醐味があるように感じます。

カツツェンバックの方法論(やる気を引き出す5つの方法)

1. 評価基準、プロセスの明確化
 - ・ 求められているモノが、分らないと“やる気”がなくなる。
 - ・ 成果に結びつく具体的方法が、明確でないと不安になる。
2. 承認および賞賛をする。

「いい勉強(仕事)をしている!あなたの勉強(仕事)には意義がある!」と言われれば俄然“やる気”もでてきます。
3. 個人の成長実感を作る。
 - ・ 「自分が成長し続けるから、この学部(仕事)が好きだ。」という実感を作る事。
4. 起業家精神を持たせる。
 - ・ 自分がやった学問は(作った仕事は)、わが子と同じように可愛い。自分のモノだと思えば本気になれます!
5. MVPを持たせる。

M : mission = 使命感
V : value = 価値
P : pride = 誇り

困難に立ち向かう時、医師の心中には、このMVPがあるのではないのでしょうか。

「教育」は「共育」である!。教えることで共に育つ。“やる気”を引き出し、共に育つ!

この教育への感性が、我母校福大には大変必要とされているのではないかと感じました。

医学部創設期には皆国家試験の教育や学生教育の分からない先生が集まっていたからFDが30数年前に始まっていたと言われましたが、最初の頃の先生には「共に育つ」感性があったと思います。その感性は伝統的に大切な感性であり、FDの力を上げていく1つの大きな力に繋がるのではないかと思います。

黒木医学部長

お話を聞いていて、その通りだと思います。朔先生が

言われた「プロ意識がない」と非常に関係してきます。今では、2年生になるために勉強する、3年生になるために勉強する、医者になるのではなくて、そういう形で講義を受けている学生が多いですから大変です。学生に「自分は医者になるのだ」とか「医者にならないといけない」と何らかの形で興味を持たせることができれば、やる気も出てくると思うのですが。

朔教授

医局ではこれはものずこく簡単なんです。毎週木曜に医局員にプレゼンテーションをしてもらいますが、僕はひたすら褒めますね。褒める、認める、励ますしかしませんが、すごくそれがよいです。ミッションが1つなんです。専門医を取る、学位を取る、というミッションが完璧に定まっています。4年生の学生さんがまだクラブ活動をした方が面白い、合コンをした方が楽しいというところから抜け出していない、ここに大きな問題があります。

黒木医学部長

そこをどうするかが、最も大きな問題です。

高木会長

医学部を卒業する、国試に合格する、医者になる為に4年までに足腰作る、足腰を強くすると学生へ言うておくべきです。6年生でいきなり放校になるとショックが強くなります。我々1回生がぼろぼろ落ちて3回生がこれは大変と危機感を持って必死に勉強し優秀な学年になりました。高度なことをしているところは超えなければならぬものがあると思います。

黒木医学部長

大学では教員が集まってこういう話を毎年します。同窓会は、うちの教育を受けた側の集まりですので、その方々からの意見は非常に重要です。国家試験が終わった後1ヶ月以内に毎年1回集まり、その年の結果をふまえた上で議論してもらえればと思います。これは次の世代へも引き継いでいきたいと思います。

朔教授

副担任まで広げても意見交換会はした方がいいと思います。

重田副会長

このような話し合いは同窓会が始まって以来初めてのことです。もっと早く忌憚なく話し合いができれば良かったのかもしれない。我々が学内の事に意見を言うことはばかられていました。最近は卒業生が指導者の中に増えてきたこともあるでしょうが、こういう話しがストレートにできるようになりました。これを使って頂ければ良い方法もできるのではないかと思います。

松永教授

重田先生がまとめていただきましたので、今後につなげて行きたいと思います。本日はありがとうございました。

第15期理事・監事名簿

役職名	姓名	回	分担業務(◆はチーフ)	勤務先
会長	高木 忠博	1	全体統括	脳神経外科クリニック高木
副会長	朔 啓二郎	1	◆総務	福岡大学医学部 心臓・血管内科学
副会長	林 英之	1	◆学術	福岡大学医学部 眼科学
副会長	重田 正義	2	◆総務	山崎リゾートクリニック
専務理事	権藤 公和	1	◆支部	権藤内科
専務理事	前川 隆文	2	学生	福岡大学筑紫病院 外科
専務理事	竹下 盛重	3	◆学生	福岡大学医学部 病理学
専務理事	廣瀬 伸一	3	学生	福岡大学医学部 小児科学
専務理事	大慈 弥裕之	3	◆広報	福岡大学医学部 形成外科学
専務理事	松 永 彰	3	◆国試	福岡大学医学部 臨床検査医学
専務理事	浦田 秀則	3	学術	福岡大学筑紫病院 循環器内科
専務理事	岩崎 昭憲	5	学術	福岡大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学
専務理事	田中 伸之介	5	◆財務	福岡大学医学部 消化器外科学
専務理事	小川 厚	6	学生	福岡大学筑紫病院 小児科
常任理事	占部 嘉男	5	学生	占部医院
常任理事	中村 秀治	5	学生	中村クリニック
常任理事	田野 茂樹	6	総務	たの眼科医院
常任理事	二田 哲博	9	学生	二田哲博クリニック
常任理事	笠 健児朗	12	学生	笠外科・胃腸科医院
理事	二見 喜太郎	1	総務	福岡大学筑紫病院 外科
理事	松本 直樹	3	総務	松本病院
理事	蔵田 善規	7	支部	蔵田眼科クリニック
理事	岩隈 昭夫	8	広報	福岡リハビリテーション病院 循環器科
理事	坂田 俊文	10	総務	福岡大学筑紫病院 耳鼻いんこう科
理事	武末 佳子	11	広報	北九州市立八幡病院 眼科
理事	鍋島 茂樹	13	学生	福岡大学病院 総合診療部
理事	小玉 正太	13	財務	福岡大学医学部 再生・移植医学
理事	北島 研	21	広報	福岡大学筑紫病院 循環器内科
理事	小川 正浩	14	30回総会担当	福岡大学病院 循環器内科
理事	久保田 正樹	14	30回総会担当	福岡大学病院 東洋医学診療部
理事	城島 宏	14	30回総会担当	福岡大学筑紫病院 整形外科
理事	松本 直通	14	30回総会担当	福岡大学病院 臨床検査部
監事	江下 明彦	2		医) 江下内科クリニック
監事	柴田 陽三	4		福岡大学筑紫病院 整形外科

事務局連絡

緊急連絡網整備

年を重ねるにつれ、会員が増えれば会員にまつわる緊急連絡事項も増えて来ます。最近少しずつそんな気がします。今後の緊急連絡網をどうするか？ 今までは取り敢えずメールアドレスをご提供願ってそれを利用して貰っていましたし、当分はこの方法を踏襲したいと考えています。

目下、連絡網整備率の最高は第3回生で、約7割の方々にご協力をお願いしています。

会員名簿第10号発行時(平成24年1月頃)、あらためて又お願いしますが、その前でも構いません、お差し支え無ければパソコンでメールアドレスをお知らせ戴くと助かります。

烏帽子会メールアドレス：eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

研究奨励賞

平成 22 年度研究奨励賞選考報告

選考委員長 朔 啓二郎 (心臓・血管内科学教授・1 回生)

第 14 回同窓会研究奨励賞選考委員会を平成 22 年 6 月 7 日に開催しました。選考委員は、福岡大学医学部・病院、筑紫病院の卒業生の教授連です。4 件(5 名)に対し、奨励賞を授与することを決めました。本賞は平成 9 年からスタートしましたが、医学研究を推進してもらいたいとの先輩達の祈りや願いの中で設立されたもので、執行部も同窓会の一大事業と考えてます。以前は、研究計画の応募がほとんどでしたが、最近では大変充実した業績とともに奨励賞への申請が数多く提出されます。選考に迷うことが多いのですが、Journal of Clinical Investigation (JCI) のようなインパクトスコアが高い雑誌に受理さ

れた研究(松岡・伊東)が出てきますと、それなりの対応をすべきだと全員一致するので、選考時間も短くなりました。医師として仕事をしていますと、感謝状はいただく機会はあるのですが、賞(アワード)は滅多にももらえないので、将来的にできるだけプラスになるよう毎年選考をしているつもりです。アメリカのグラント(研究費)申請には、高校時代からの受賞リストの掲載スペースもありますが、このような賞を獲得したことを科学研究費等の申請時に是非利用してもらいたく思っています。様々な分野、また地方支部からの推薦を期待しています。同窓の先生方、後輩に研究費獲得や賞に応募する指導をよろしく願います。

福岡大学医学部再生移植医学 福大助教 松岡 信秀 (20 回生)	High-mobility group box 1 is involved in the initial events of early loss of transplanted islets in mice. (論文) J. Clin Invest., 2010
ベイラー大学免疫研究所ポスドク 福大助教 伊東 威 (22 回生)	
福岡大学医学部呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学 福大助教 濱中 和嘉子 (26 回生)	小細胞肺癌の網羅的遺伝子解析による予後因子の解明(計画)
福岡大学医学部形成外科学 福大助教 大山 拓人 (26 回生)	新規マウス慢性感染創モデルを用いたバイオフィルム形成と慢性創傷の関係についての研究(計画)
福岡大学心臓・血管内科学大学院先端医療科学系専攻 福大助手 杉原 充 (24 回生)	Safety and efficacy of antihypertensive therapy with add-on angiotensin II type 1 receptor blocker after successful coronary stent implantation. (論文) Hypertens. Res., 2009



杉原 充先生

大山拓人先生

濱中和嘉子先生

ご欠席の松岡・伊東両先生に代わり表彰を受ける
再生・移植医学 安波洋一 教授

平成 22 年度授賞論文抄録

High-mobility group box 1 is involved in the initial events of early loss of transplanted islets in mice. (論文)

福岡大学医学部再生移植医学 福大助教 松岡信秀 (20 回生)

Islet transplantation for the treatment of type 1 diabetes mellitus is limited in its clinical application mainly due to early loss of the transplanted islets, resulting in low transplantation efficiency. NKT cell-dependent IFN- γ production by Gr-1⁺CD11b⁺ cells is essential for this loss, but the upstream events in the process remain undetermined. Here, we have demonstrated that high-mobility group box 1 (HMGB1) plays a crucial role in the initial events of early loss of transplanted islets in a mouse model of diabetes. Pancreatic islets contained abundant HMGB1, which was released into the circulation soon after islet transplantation into the liver. Treatment with an HMGB1-specific antibody prevented the early islet graft loss and inhibited IFN- γ production by NKT cells and Gr-1⁺CD11b⁺ cells. Moreover, mice

lacking either of the known HMGB1 receptors TLR2 or receptor for advanced glycation end products (RAGE), but not the known HMGB1 receptor TLR4, failed to exhibit early islet graft loss. Mechanistically, HMGB1 stimulated hepatic mononuclear cells (MNCs) in vivo and in vitro; in particular, it upregulated CD40 expression and enhanced IL-12 production by DCs, leading to NKT cell activation and subsequent NKT cell-dependent augmented IFN- γ production by Gr-1⁺CD11b⁺ cells. Thus, treatment with either IL-12- or CD40L-specific antibody prevented the early islet graft loss. These findings indicate that the HMGB1-mediated pathway eliciting early islet loss is a potential target for intervention to improve the efficiency of islet transplantation.

High-mobility group box 1 is involved in the initial events of early loss of transplanted islets in mice. (論文)

ペイラー大学免疫研究所ポスドク 福大助教 伊東威 (22 回生)

【背景】 インスリン依存糖尿病の新しい治療法として膵島移植の臨床応用が開始されている。現在、臨床膵島移植に於いて、1 人の糖尿病レシピエントを移植後インスリン治療より開放するためには 2-3 回の膵島

移植、すなわち 2-3 人分のドナー膵臓を必要としており、この問題の解決が臨床膵島移植の急務となっている。先の我々の研究により、経門脈的肝内膵島移植において、移植後早期に肝内ナチュラルキラー

T (NKT) 細胞が活性化され、その存在下に肝臓内に集積した Gr-1⁺CD11b⁺ 細胞 (好中球) が IFN-g を産生し、その IFN-g が移植膵島障害の制御因子もしくはエフェクターとして作用している事が明らかになった。しかし、この上流のメカニズムはまだ解明されていない。近年、敗血症で致死因子となる high-mobility group box 1 protein (HMGB1) が注目されている。HMGB1 は DNA 結合蛋白として発見されたが、最近その他の重要な生理活性があることが報告されており、中でも細胞外で炎症性サイトカインとして作用することが報告されている。本研究は HMGB1 に着目し、移植膵島障害との関連性を検討した。

【方法&結果】 STZ 糖尿病マウスへ単離膵島 (1 匹分 200 個、同種同系) 肝内移植時に、抗 HMGB1 抗体 (0.5mg) 投与でレシピエント (n=5) は正常血糖になった。対照抗体では高血糖で推移した。抗 HMGB1 抗体投与により肝内 NKT、好中球の IFN-g 産生が抑制された。免疫染色で無処置膵臓膵島、単離膵島核に HMGB1 が染色され、移植 3h 後では移植膵

島核のみならず、細胞質に染色された。移植後 6h をピークにレシピエント血中 HMGB1 値が上昇した (48.8ng/ml)。単離膵島は他臓器組織 (胸腺、肝臓、肺、脾臓、膵臓) に比し 50 倍以上の HMGB1 (112.2 ng/mgDNA) を含有することが判明した。単離培養膵島にサイトカイン (IFN- γ , TNF- α , IL-1 β 各 20ng/ml) を加えると膵島は障害され、培地中 HMGB1 は上昇した (24 hr: 11.8ng/ml)。HMGB1 (100 μ g) 静注後、肝単核球、NKT、好中球からの IFN-g 産生が増強した。HMGB1 (0-20mg/ml) 刺激で単離肝単核球が NKT 依存性に IL-12, IFN-g を産生、また FACS 分離クッパー、好中球が NKT 依存性に IL-12 を産生し、さらに IL-12 の存在下に好中球 IFN-g 産生が増強した。KO マウスを用い TLR-2、RAGE が HMGB1 の受容体であることが判明した。

【結語】 移植膵島自身の HMGB1 が引き金となる肝内移植膵島障害機序の全貌が明らかとなり、今後の臨床膵島移植の成績向上への新たな治療戦略へ貢献することが期待される。

小細胞肺癌の網羅的遺伝子解析による予後因子の解明 (計画)

福岡大学医学部呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学 福大助教 濱 中 和嘉子 (26 回生)

【研究課題】

小細胞肺癌の網羅的遺伝子解析による予後因子の解明

【目的】

小細胞肺癌は予後不良な疾患の 1 つであるが、進行症例であるにもかかわらず長期予後を得る症例も存在する。我々が今までに行った網羅的遺伝子解析から (Lancet363:775-781, 2004., 継続実験の結果は現在投稿中; 2 編)、神経内分泌分化に伴って発

現する蛋白 (Chromogranin A, Synaptophysin, NCAM, ASCL1) が低発現である症例では、予後良好であることが判ってきた。そのメカニズムおよび他の因子 (Ki67, CDH2, ELAVLE, myc 等) との関連を、生体の細胞レベルで検討することにより治療への応用を明らかにしたい。

【方法】

網羅的解析から得られた候補遺伝子 (前述) を cell line で siRNA または overexpression させて、細

胞増殖能および細胞接着能を検討する。また同時に pathway 解析をすすめ、小細胞肺癌において細胞レベルで全体としてどのような経路がこれら候補遺伝子および標的蛋白の発現を調整しているのかを検討する。

【期待される成果】

神経内分泌分化そのものが腫瘍細胞の悪性度に寄与しているかどうかを判明する。神経内分泌への分化は、臨床診断の場では、血中蛋白測定や免疫組織染色法など比較的安定した技術で確認することが可能であり、術前の治療選択や術後経過観察における指標の 1 つとして活用出来る。

Safety and efficacy of anti-hypertensive therapy with add-on angiotensin II type 1 receptor blocker after successful coronary stent implantation (論文)

福岡大学心臓・血管内科学大学院先端医療科学系専攻 福大助手 杉原 充 (24 回生)

Abstract

This study was performed to evaluate the safety and efficacy of additional anti-hypertensive therapy with angiotensin II type 1 receptor blocker (ARB; olmesartan or valsartan) after successful stent implantation in patients with coronary artery disease (CAD). Fifty patients with CAD after successful stent implantation were included in this study. They were divided into an ARB group, who initially received olmesartan (n=20, 14 ± 8 mg/day) or valsartan (n=20, 60 ± 23 mg/day) immediately after stent implantation and a non-ARB group (n=10) according to their blood pressure (BP). Follow-up coronary angiography, measurement of BP and blood sampling were performed before (at baseline) and 6-8 months after stent implantation (at follow-up). There were no significant differences in the baseline characteristics between the groups, except for BP. Although there were no changes in %diameter restenosis between the groups, the BP level in the ARB

group at follow-up showed a significant reduction ($125 \pm 12 / 69 \pm 9$ mmHg) and reached the target BP. There were no critical adverse effects in the ARB group throughout the study period. In addition, serum high-sensitive C-reactive protein (hs-CRP) and pentraxin 3 were significantly decreased in the ARB group, but not in the non-ARB group. Although olmesartan and valsartan induced similar BP-lowering effects, olmesartan but not valsartan induced a significant decrease in hs-CRP, but did not increase serum uric acid. In conclusions, anti-hypertensive therapy with add-on low-dose ARB after stent implantation was safe and achieved the target BP. In particular, olmesartan had an anti-inflammatory effect. This strategy may make it possible to safely avoid coronary events due to higher BP.

Key words: angiotensin II type 1 receptor blocker, olmesartan, valsartan, coronary artery disease, high-sensitive C-reactive protein

新規マウス慢性感染創モデルを用いたバイオフィーム形成と慢性創傷の関係についての研究（計画）

福岡大学病院形成外科 福大助教 大 山 拓 人 (26 回生)

【目 的】

慢性創傷では細菌感染が治癒過程に大きな影響を及ぼす。原因として宿主側の免疫状態や医療器具などに付着した菌によるバイオフィーム (BF) 形成が挙げられる。このような病態を反映できる動物モデルの報告はなく、生体内での病態を正確に知ることはできていない。われわれは細菌感染をともなうマウス慢性創傷モデルを開発し、菌感染、コロニー形成、BF 形成、局所免疫など様々な因子を総合的に検討できる病態モデルを作成することを目的とした。

【材料・方法】

マウスの背部皮膚の一部を切除し、円形のプラスチック (PL) シートを皮下に挿入する。次に抗がん剤 (5-FU) 投与にて免疫抑制モデルを作成し細菌を

PL 下に播種する。実験は経時的に行い、創面や PL 上での菌局在、炎症細胞浸潤を検討する。BF の検討は染色および電顕検索にて行う。菌感染による影響は細胞死、毒素 (エンテロトキシン)、炎症性サイトカインなどの量・分布・局在を検討する。

【期待される結果】

本研究は生体内挿入医療器具を介した菌感染症のメカニズムを解明できる世界で初めての感染症モデルとなる。これにより菌感染後の局所での生体側の免疫防御および菌の排除機構や、生体内に挿入された器具表面での菌の定着およびバイオフィーム形成過程を明らかにできる。臨床的に多くの意義のある情報をもたらすことができると考える。

平成 23 年度 福岡大学医学部同窓会

研究奨励賞募集

対 象：正会員及び準会員で、40 才未満の者または学部卒業後 10 年未満の者

研究課題：医学に関するものであれば自由（医学に関する研究計画又は研究論文）

申請方法：所定の申請書による（所定欄に支部長推薦を要す）

提出先：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
Tel 092-865-6353（直通） 代表 092-801-1011 内線 3032 Fax 092-865-9484

締 切：平成 23 年 5 月 2 日（月）

賞状・賞金：奨励賞（優秀論文賞を含む）5 件以内

発表及び表彰：平成 23 年 7 月、第 30 回同窓会総会席上

そ の 他：①受賞者は研究報告書を提出する事。

計画受賞者は 1 年後研究成果報告書を提出すること。

③申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事

④申請書はワープロで記載し、過去の研究業績（原著、著書、症例報告、学会発表）、研究の独創性・重要性を十分に書く事

※準会員の方もご応募下さい。

平成 21 年度評議員会議事録

- ◆日時 平成 22 年 4 月 24 日 16 時
- ◆場所 福岡国際ホール
- ◆出席 評議員：実出席 50、委任出席 40、
欠席 12
支部長（再掲）：出席 13、欠席 6

◇経過報告

〈高木会長〉

皆さんこんにちは。昨年 4 人の仲間が亡くなりました。全員で黙祷を捧げたいと思います。

子女の入試状況から報告します。今年は 14 人（うち推薦 3 人）の合格がありました。また福大の入試も厳しい試験になっており、2291 名が一般入試枠の 75 名にチャレンジしたことになり 21 倍という高い競争率になっています。一番皆さんに報告しなければならない事は、75 周年寄付活動の結果です。皆さんに 3 年にわたりお願いしてきましたが、3 月末で終わりました。その結果新しい情報では医学部 OB の寄付総額が 1 億 2 千万円の大台に乗っております。3 月には朔教授と私とで学長室に出向き烏帽子会として 1 千万の寄付を届けて参りました。学長初め藤原副学長、事務局長が立ち会われました。9 学部の中で一番まとまって熱心に活動したことに非常に感謝されました。寄付活動に関しましては皆さんにご協力いただきましてありがとうございました。初めて寄付活動を行いました、1 億 2 千万というまとまった額の寄付が集まった事に感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

教員人事については学部長に黒木政秀先生、病院長に内藤正俊先生となりました。副病院長に我々の仲間の大慈弥裕之先生が就任することになりました。

21 年度の研究奨励賞は 4 件の受賞者となりました。年々充実し内容も難しいものとなり良い研究をしてもらっているようです。

最後に国家試験の報告をします。結果は大変悪く新卒においては最下位になり非常に残念でなりません。何故そのようなになったのか詳細については話があると思います。以上です。

◇議題 1. 平成 21 年度収入支出決算見込み

[附]会費納入状況 (松本専務理事説明)

21 年度において徴収率に若干の減少傾向がみられることから、皆さんの意見を聞きながら徴収率を上げる方法を考えなければならないと思っています。支部徴収において

もバラツキがあるので納入期日の徹底をお願いしたいと考えています。

◇議題 2. 平成 21 年度事業報告及び平成 22 年度事業計画(案)について

①会報の発行〈田野常任理事説明〉

輸送料の増額により予算増額。

②総会の開催〈田野常任理事説明〉

平成 22 年度より個人参加会費が 5 千円と減額されたため、その穴埋めを同窓会当局が行うこととなり、その分同窓会の支出増加が予想される。

③支部活動援助は例年どおり〈田野常任理事説明〉

④研究奨励賞〈林副会長説明〉

学内、学外の正会員、準会員を対象とし論文ないしは研究計画を提出。優秀者に賞状と研究資金としての賞金を渡しており今年度は 4 名決定。応募者の増加に伴い人数も額も増加してほしいと選考委員会より希望あり。

⑤在外研究援助金〈林副会長説明〉

正会員、準会員、学生会員で外国への留学をされる方に 1 件 20 万円を限度として援助している。福大の卒業生できちんと会費を払っていれば福大に在籍して無くてもよいことにしている。

⑥学生対策〈林副会長説明〉

新入生歓迎会、M4 激励会、国試激励会、M7 激励会を実施している。M7 激励会は国試浪人をしている卒業生が対象。情報交換の場を設け次回に頑張ってもらうために新たに始めた。

⑦白衣贈与〈林副会長説明〉

5 年生へ進級する時に同窓会エンブレムの入った特製の白衣を BSL の説明会の席上で渡している。学生からは 5 年生になるときに白衣をもらって気持ちが新たになったとの感想が出ている。

⑧国試対策費〈林副会長説明〉

夏期セミナーの実施は、今年も 7 月 23 日から 25 日まで 3 日間、6 年生の下位の学生 30 人程度を泊まり込みで福大のセミナーハウスを借りて行う。

⑨支部祝儀贈与 ⑩学生行事援助 ⑪慶弔贈与

⑫グッズ作製 ⑬会員名簿 例年どおり

⑭パニックマニュアルの発行〈北島理事〉

5 版を作製するにあたり出版社を変え、出版社の意向に沿った形式で進めており、発行は次年度にずれ込み予定。形式は変わっておらず原則、当直医、研修医、後期

研修をするドクター達が助かるような本を目指している。執筆者も基本的に学内の先生方にご協力いただき37名のOBの方々に原稿をお願いした。現在は校正中であり近々出版社と最終打合せに入る。金額については1冊の単価は前版より安い。発行は秋号の同窓会報と一緒に送る予定。

〈重田副会長〉

事業計画案の検討に再度移ります。同窓会として一番力を入れているのは学生対策です。国家試験の結果を受けてもう一度見直す必要があるとの雰囲気が出ています。この件で会長と私で学部長に話をして参りましたが、学部としての今回の対策を練っているようです。それがお手元にあります総括の資料です。現在の学内の状況を国試対策委員をしていただきました松永先生よりお話しいただきます。

〈松永専務理事〉

今年は非常に国試合格率が低くて申し訳なく思っています。一番の原因は6年生になって学生が勉強しなかったことにあります。今年卒業した学生は低学年で荒れていた学年で4年生からてこ入れして激励会等で刺激を入れました。クラス担任や副担任の先生方も積極的に関わり動いてありました。反省としてあげられる1つに5年生から6年生に上がる時のBSL試験の評価が若干甘いことでした。それでも昨年の6月にあった模擬試験は久留米より少し良い結果となっていました。それがその後ずるずる下がってきまして、11月の卒業試験の時まではかろうじて行けるという状況でしたが、1月の模擬試験ですでに全国で下から2番目になっていました。基本は6年生に自覚を持たせてきちんとさせることです。2つ目に6年生でクラブ活動ばかりしている学生さんもいて、成績が良いものですから皆さんと一緒に試合に行くので成績の低い人まで浮き足立つという状況が続いているので、今年は西医体をご遠慮いただくことにしています。3つ目に卒業判定も少し甘かったと思います。厳しい基準を提案しましたが、採用されませんでした。しかし今年は厳しくなるのではないかと考えています。卒業試験の後にも補講を組んでいますが、出席率も良くなって卒業試験が済んだら、成績が良かったら遊ぶという風潮が続いていました。そういうことが問題かなと考えています。反省の1つ1つを改善すべく努力をいたしております。

〈重田副会長〉

ここに1枚別刷りの紙があります。馬渡先生からの緊急のFAXです。我々の気持ちを代弁してくれている内容だったので臨時で資料に入れさせていただきました。馬渡先生から一言お願いします。

〈福岡支部・馬渡評議員〉

いろいろな思いで今日来ました。今理事の先生方や、

実際に教育に携わっておられる先生方を拝見すると胸が張り裂けそうになります。恐れ多いことだと思いますし、自分は意見する資格がないかもしれませんが…いくら卒業生が頑張っても、学生が頑張っても、病院の収益が上がっても、良い研究をされてもこれが出てしまうと全てが毀損されてしまうような気がするんです。それと根幹に関わる問題かなと思います。学生さんが勉強しなかったのは間違いなと思います。駿台やいくつかの予備校が出している入学時の総合的な偏差値評価で福大より低い大学が10以上あります。それなのに国試の結果が福大が最下位になってしまうのは教育の効果が上がっていないとしか世間は評価はしないと思うんです。4年前にも最下位になり2回もそうになってしまうとだんだん常連校みたいに言われるのも大変心外です。入学時において福大より易しいと思われる大学で国試で良い成績をあげている大学があります。そこ福大の違いは一体何だろうというのが素朴な疑問です。悔しいわけですよ。一生懸命頑張ってもこれ1つで大学の価値が毀損されるのは間違いないので最優先課題で、今年は特別に同窓会で予算を組んで、一年限りでもいいからプロジェクトを組んでもいいのかなと思います。なんとなく我々の頭の中に入学時はこの位だから卒業時でもこの位でいいのではないとか、最下位になって慌てているところがあって、それはある意味、志が低いように思います。もっと上位にいいのではないかと思います。資料を見ると上位にいい込んだ卒業回もあります。実際携わっておられる先生がおられて本当に失礼千万と思いますが、今後同じことが繰り返されると確実に我が大学の価値が毀損されます。数値目標をきちんと立てたプロジェクトを同窓会が作ってもいいと思います。この問題に関しては我々同窓会が声を出していかないといけないと思っています。

〈重田副会長〉

馬渡先生の見解はこのフロアにおられる評議員の先生方の総意だろうと思います。学内の先生方一言お願いします。

〈朔副会長〉

馬渡先生のように僕は言ってもらいたいです。会長と重田副会長が学部長に会いに行く前に僕の部屋に来たので「徹底して文句言え!」と話しました。「こんなことでは恥ずかしいじゃないか! 学生のレベルは教官のレベルじゃないか」という内容まで言わないといけないですね。模擬試験があってこれを68点に切ると上の方です。それを毎年どんどん下げる訳です。松永先生は国試対策委員長ですから教授会で上の方で切ってくれと言ったんですが、それに賛成する先生は非常に少なくてもいいのかなと思ってしまいます。福大の入学試験は上のランクなんです。慈恵や順天堂まではいかないけどその次位にはランクされる位なんです。

すが、国試がこの結果です。68点で切ればいいのですが、そうすると放校になる人がいるんです。放校になる人を救おうとして先生方がいろんなことを言われて、自分が言っていることに酔ってくるような状態になって、そこまでどうにかしようじゃないかという雰囲気になってくるんですね。それを厳しくやれば随分上がると思います。2年連続やれば良くなると思います。そこで気を抜くと4年おきに悪くなるんです。先生が言われるとおりです。大事なのは大学の方針だと思います。いろんな医科大学がありますが、理事長が大いなる権力を持っている大学はそれができるのですが、うちのように理事長にそういう方針がありませんし、医学部はミックスされた状態で、国立大学となら変わりはないです。入試も国立大学と同じです。点数だけですから。確かに卒業生の子弟で今度留年すると放校になる人がいると皆さんやはり考えることもあります。そういうものを私達同窓生が厳しくやってもらいたいということを大学に対して言うべきだろうと思います。先生のような厳しい意見がこういう中でもっと活発に出てくるべきだと思います。学生のレベル今が教官のレベルです。大学のレベルを上げようとするならば学生のレベルを上げないといけないと私は思っています。

〈林副会長〉

朔先生に補足します。厳しくというのはお間違い戴きたくないのですが、敷居値を固定することです。「ここまで上がってこない子はだめだよ、しかもその位置を下げないよ」ということです。その位の能力はあるというのが私達の考えです。位置を下げてやれば学生が楽でしょうと言われる先生がおられます。そうするとその位置までしか努力しない子がいる。しかしその子達に「位置はここにあるんだよ、文句言っても泣いても下がらん!ここにあがらないといけないよ」と骨身にしみてもらえばここまで這い上がって来る子が殆どだと思のです。学内の同窓生の方がここまでだよと厳しく言っている方が多いです。だから学生から好かれることは少ないかもしれないです。当分は学内の同窓の教官は「ここだよ!みんなはここを超えられるんだよ、だからみんなここを超えて下さい、私達は下げないよ、這い上がっておいで!」という方針で行くと思います。それでしか学生のレベルは上がらないと思います。もう1つ「ここだよ」と言ったら殆どがここまで這い上がって来る素質を持った子なんだと信じています。

〈重田副会長〉

いつも言っていますが、国家試験の成績をみて胸が痛むのは親と同窓生だけです。他の人は関係ないんです。我々程そんなに胸は痛んでないですよ。

〈北九州支部 坂本支部長〉

少し話は変わりますが、75周年の寄付において北九州は

大変頑張りました。これは母校愛は当然ですが、金額的に比較することはおかしいとは思いますが、地元より2倍の金額なんですね。これは子弟に対する思いもあると思います。入学したら一生懸命教えていただいて国試に合格して立派な医師になって欲しいという気持ちも入っています。このことは学内の先生方には是非解っていただきたいと思っています。寄付にはそういう願いが込められているんです。国家試験のレベルが福大の臨床のレベルかというところではないです。世間一般的には対外的に出て行くと福大のレベルが低いという評価はないです。臨床能力は高いです。産業医科大学でも殆ど国試のための教育はしていないようです。国家試験対策は殆どしていないんです。それでも受かる訳です。その違いが何かと言うと福大の入試レベルは高いかもしれませんが、勉強の仕方やそれに向かう情熱や熱意の差ではないかと思っています。そうなれば学生時代の教育が最終的に重要ではないかと思っています。個人の素質もあるでしょうが、グループ勉強の必要性、個人での勉強には限界がありますので、いかに良いグループを作りながら切磋琢磨しながら勉強に向かうかが大きいと思います。それをサポートするのが学内の先生方の力だと思います。医者の世界では国試の結果は重要ではないようです。内々の僕たちの意識はそうですが、世間的にはそこまで考えてないと思います。

身近にいる僕たちは毎年評価されるので国家試験のレベルを上げて欲しいとは思っています。子弟にも絡んで来ますので臨床レベルと合わせて国家試験のレベルも上げて欲しいという気持ちです。

〈竹下専務理事〉

皆さんに良い気持ちをもたらせなかったことを申し訳なく思います。内部に居て5年目になりますが、4年前にも一度最下位になりました。その時は117名受験して70数%。今回は101名受験して81名合格で根本的に違います。何が違うかと言うと削ってなくて落ちたんですね。これは体制の問題が大きいと思います。いつまで経っても福大は下から3分の1の所をずーと行っていることを繰り返して口惜しい気持ちで一杯です。真ん中以上になりたいという気持ちです。それを今から何らかの形で計画して行って少し落ちても国試への影響を及ぼさない学力になって行って欲しいと思います。

〈浅倉評議員〉

先程馬渡先生も言われましたが、現実的に国試対策費を上げて夏期セミナーだけではなくて春期セミナー秋セミナーと3回位したらどうでしょうか?

〈松永専務理事〉

その話は実際に出ております。してもいいかなと私も思

いますが、決定打ではないかなと思います。时期的に限りがありまして6年生は夏休み前に夏期セミナーをしています。次の模擬試験が9月にありその後11月に卒業試験、次の週にもう一度模擬試験があります。そういうことで卒業判定をしています。その後にはだらけるということで、卒業判定が昨年は12月の中旬でしたが、その日まで毎日1コマずつ補講を組んでいましたが、その出席率も芳しくない状況でした。必要な対策は全て打ちたいと思っています。基本は基礎の学力を上げるのが1つ。国試の前の対策を行うことが1つ。その2つが必要だと思います。1年生の時の講義は教養が殆どで専門は僅かしかなくかなり自由に遊べる状況です。2年生からは普通になります。毎年の判定も以前よりは厳しくなっています。それでも甘いところがあります。そこをきちんとあげて行って基礎学力の無い子は上位の学年に進級させないのが基本だと思います。それをした上で更に国試対策をする。国試対策のチームも部屋毎に割り振ってますし、元々1年生から持っている担任制度もあります。留年生に対しても対策をとっており学習の指導も冬期には行っています。いろいろ対策をしていますが、なかなか今のところ思うようにいっていないのが現状です。1つ1つを地道に押さえていきたいと思っています。

〈重田副会長〉

学内から意見が出た場合は全面的にバックアップし色々な方法をやっていきたくと思っていますのでご協力よろしくをお願いします。この問題は非常に大きな問題です。最後に会長よりまとめとして一言お願いします。

〈高木会長〉

ここにいる卒業生の大学内スタッフに裁量権を渡して実践してもらったら国家試験の問題は殆ど解決すると思います。彼らの言っているように進級の問題や卒業基準等裁量権を渡してもらって実行出来たら私が願う100%全員合格は不可能ではないと思います。またそれを実現できる学生達が居ることも口惜しく思います。浅倉先生から言われたサポートについても11人の教授と一緒に学生に出来ることを最大限やっとういようなミスを二度と起こさないように努力をして防ぎたいと覚悟しています。3回起こるような事が絶対ないように防がないといけないと肝に銘じてこのスタッフとやっていきますので、皆さんも外から応援して下さい。厳しい言葉もどンドン投げかけて下さい。よろしく願いいたします。

拍手をもって承認

◇議題 3. 平成 22 年度収入支出予算(案)

池田事務局長説明 承認

◇議題 4. 決算評議員会省略の件

承認

◇議題 5. 福岡大学創立 75 周年記念寄付金募集 並びに医学部同窓会の応募状況について (松本専務理事)

長期に渡りまして75周年募金活動にご協力いただきまして誠にありがとうございました。深く御礼申し上げます。資料は平成22年4月6日までの統計をほぼ網羅しております。大学職員としての同窓生40名、法人を持っておられる同窓生が60名、大濠高校出身の同窓生が3名、その他の同窓生568名合わせて671名が105,901,000円という1億を超える金額を寄付していただきました。他に学年でまとめて寄付をされています。例えば総会後の余剰金をまとめて寄付するという形で7,17回生、9回生、12回生の寄付が合わせて3,942,735円。同窓会本部より直接学長室に持って行きました1千万円。合わせて総額119,843,735円、寄付率は28.7%です。資料には回、支部毎に金額が明記されています。これをみますと1回生、2回生と徴収率が高く1回生は66.7%で3人に2人は寄付していることになります。2回生、3回生…と高率です。見ていくと14回生位からすーと下がってくるんです。これは卒後11年目から年会費を払わないといけない、総会も担当しなければならない。そういう経験のある学年は総じて寄付率が高い、それ以降のまだ一生懸命勉強している若い方がそこまではないと言えらるような気がします。また同窓会にも成熟した同窓会と未熟な同窓会があります。成熟した同窓会は会員数も5千人位で年齢層も厚いです。福大同窓会の最年長は還暦を超えた年齢です。その年齢の方はまだまだお金がいる世代です。ましてやもっと若い世代の人は子どもを医学部にやるのに大変だという時期の先生方が多いです。80代以降になると大学に寄付しようかと思われる方が相当おられるようです。成熟度が違いますから金額だけでは比較にならないです。率としては大変頑張っていたいただいた総額ではなからうかと思えます。支部においては七隈支部や筑紫病院支部はどうか、お膝元の福岡支部はどうか、一番もまれている北九州支部が頑張っているとか、以外と遠く離れている支部の方が寄付が多かったなどの評価が資料をご覧になるとお解りになるのではないかと思います。財務担当理事と致しましてはこの成果はほっとした金額となりました。他の学部や他の大学に対しても胸の張れる金額ではなからうかと思えます。1つ余計なこと言うとすれば、私立の医科大学では入学時や他でお世話になっているから寄付を沢山するという医科大学もあります。福大はそういうことが一切無い大学でありながらこれだけのことをしていただい

たことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

〈高木会長〉

医学部同窓会烏帽子会が出来て初めてオフィシャルに寄付活動した成績としては、皆さんの協力できちんとした成果を出せたと思います。福岡大学は今9学部ありますが、その中で医学部が一番熱く盛り上がり行こうという情熱が強いので、それが他学部へ波及して1つになって福岡大学が前進していくきっかけになればいいと思います。現代の厳しい社会状況の中で1億集めたことは大変大きなことを成し遂げたと自負しているのではないかと考えています。

〈重田副会長〉

寄付活動について感想やお気付きの点があると思いますのでご意見をお願いします。

〈北九州支部 坂本支部長〉

最初の年度はなかなか学内もまとまらないし、情熱も我々には伝わってこない。途中会長の文章がきてから支部としてもこういう情熱を1つの形として表せる良い機会だという意識になったようです。3年間の寄付活動の中で3年目を目標にしてやってきて、北九州支部も最後の年にやっとこの金額ですが集まったと思います。当初から思い描いたものを最初の年に具体化して、学内の先生方の熱い情熱の文章が回ってきて初めて意識づけができ、高木会長や学内の先生が来られて熱い情熱を支部総会で話していただいたことは1つ大きなものになったと思います。

〈飯塚支部 二宮支部長〉

飯塚支部としては協力の度合いが足りなかった事を反省しています。私自身振込用紙を再度送っていただきましたが、寄付をしようと思った時締められており出来ておりません。私の音頭の取り方も悪かったでしょうし、思った様にお金を出せないという意見もありました。次回は頑張ります。

〈筑後支部 宿里評議員〉

結果を見て金額がトップ3に入っておりますのでほっとしています。出来るだけ寄付をしていただくように、毎年の支部総会の案内に高木会長や重田副会長のご意見を入れまして働きかけをしました。ただ筑後支部の役員の中にも金額を指定されることへの抵抗感があり、額を指定されるのであれば寄付はしないと言われる方もおられました。私としては非常に頑張った甲斐があったと今ほっとしております。

〈宮崎支部 野田支部長〉

11回生までがだいたい寄付をしていただいておりますがそれ以降は22回生におられる位で、支部活動もここ5～6年意気消沈している状態でなかなか集まって下さらなくて意識が薄れてきてるかなと考える事があります。今日も午前11時で仕事をやめてここまで来なくてはいけないのでか

なり遠くて患者さんのやり取りも殆ど出来なくて意識も薄れているようです。若い先生方は宮崎には帰ってくるのですが、同窓会にはだんだん出てこられない状況です。今回の寄付を見ても同窓会に対して意識の高い回までが納めているという状況のようです。

〈関西支部 渡邊支部長〉

中川先生に代わって支部長をと昨年の忘年会で言われて、その後情報が無かったのでこういう会がある事も初めて知りました。関西の活動ですが、毎年忘年会が1回あるだけです。今問題なのは卒業生が出られて7～8人位に対して学生さんは20人近くが参加してくれています。関西出身の学生さんが増えているようで多くなっています。学生さんの会費も参加する先生が負担していますので厳しい状況です。今回の寄付についても福岡大学の活動が関西には伝わってないため今回非常に厳しい結果になってるんだと思います。私も出来ておりません。関西出身の上方会と大阪にいる卒業生との繋がりが今全く無くなっている状況で名簿も何も無い状況になっていますので1から考えて行きたいなと思っています。恥ずかしい結果ですが、大学のために頑張りたいと思っていますのでよろしく願いいたします。

〈福岡支部 権藤支部長〉

福岡支部はお膝元になりますのでかなりハッパをかけましたがちよっと不足かなと思っています。どこの支部も同様ですが、11回生以降に厳しい状況になっていることが福岡支部にも見られます。それでも福岡支部はお互い頻繁に会いますし、大学に患者さんを送ったりということもありますのでもう少し行かなくとも思いましたがなかなか上手いきませんでした。私の力不足だと思います。学内の先生にもお願いしたいのですが、大学に患者さんを送るのがなかなか難しい、近くに大きな病院がたくさんあるのでそちらに患者さんを送る方が早い、大学へ送るのはめんどくさい、大学に行くと非常に待ち時間が長いという、病診連携の問題なのですが、これももっとスムーズに出来ると大学との連携が上手く行って大学に対する考え方も変わって寄付も増えたのではなからうかという感じもちょっとしています。これは同窓会全体で考えなくてははいけませんけどどういう風に改善していくのか、改善できる方法を取れるかを考えていこうと思っています。

〈重田副会長〉

以上の点も踏まえまして現在の病院の進捗状況をハード面、ソフト面含めて、そして寄付の事について一言お願いいたします。

〈朔副会長〉

皆さん本当にありがとうございました。私は大学の方で

募金委員をしておりますので非常に楽しみにしております。この1億2千万という金額はかなりのもので、評価も非常に高いです。寄付はあくまでも任意のものであって強制ではありませんので、いろいろな意味でこれをソフトランディングしていくことだと思います。寄付をした人も、してない人もですね。そこで又いい雰囲気をつくっていけばいいかなと思います。寄付の歴史を作るというのが私達執行部が掲げたスローガンですが、大体のところ達成出来たと思っています。あくまでも寄付は任意のものであって強制ではありません。国家試験の合格率が自治医大や順堂大学のレベルが続けば寄付率も上がるだろうと思います。次は筑紫病院の建設がありますのでそこでも寄付の件は出てくると思います。しかしながら恒常的に寄付をしないといけない状態が続くことはやはり厳しい訳ですが、寄付をしたいという状態の大学にもっていかないといけない、そうした大学作りをしていくことが私達の使命だろうと思っています。寄付することがステータスに繋がるということです。新しい病院ですが、9月末に建ち上がる予定です。開院が平成23年1月4日です。それに合わせていろいろなパーティーが開かれると思いますので案内がいくと思います。本当にありがとうございました。

〈重田副会長〉

筑紫病院の新築案も決定しましたので現在の進行状況や将来構想についてお願いいたします。

〈前川専務理事〉

筑紫病院の構想は14～15年前からあがってまして、実際には2年前に当時の三役に見ていただいたところから始まりました。昨年の6月に大学協議会の評議員の中で一応合意するという形で着工計画を進めることになりました。それからワーキンググループを作り詳細設計に入りましたが、今年の1月になりましてどうもあやしいと。というのは病院の半分が借地がかなり入ってまして、その借り上げに合意するとなっていたのですがどうも無理のようだ(事業部が動かなかったからですが…)と。それを聞かれた医療担当の瓦林副学長が「では、縮小した案を作れ」ということになりまして、3月に診療部長会議で集められ「今のままだと間に合わない、土地が無いものとして縮小案を作れ」という話になりました。誰も言わなかったのですが、僕は「今の案でギリギリなのに縮小案を作れと言うことは縮小案でいけ!という意味でしょうか?」と聞きましたら「そうなる可能性がある」との返事に「それはのめない」と話しました。「どうしてもと言われるなら大学の運営がそういう病院で構わないという印鑑を押されるならば考えます」と伝えました。岩下病院長が「では前川の案を持って学長と交渉する」という話になり学長がその話を聞かれたら事業部が土地を買収してないこと

を初めて知られたようでその案は考えない!と、事業部を押し進めるということになり、事業部は実は全然交渉してなかったのですが、話をするとあつという間に2週間で決まってしまうました。4千3百万の補償金を払うということで土地の買収が終わってしまいました。実は今週の4月20日火曜日の午後4時に医療担当副学長の瓦林先生、財務担当副学長の藤原先生にお会いしまして立案を全部見せました。それでOKとの返事を戴きましたので来週4月27日火曜日の午後4時に大学の三役(学長、副学長、事務局長)に最終案を提出する予定です。それでOKが出ましたら5月17日の大学協議会にかかり通る予定です。そうしますと平成23年3月には着工できる見通しになりました。来年の3月まで着工を急いでる意味は補助金が3億5千万円近く出ることにあります。但し条件が付いており耐震構造をもった新病院を造ることと、造る際にはベット数を1割削減せよということがありますので、筑紫病院は334ベットを310ベットで申請する予定です。その旨で決まりましたので是非とも3月の末日までには杭を1本でもいいから打たないといけません。そうしたら始められます。期間を短くするために地下の構造を取りやめて1階から地上9階までの病院を建てる予定です。工期が2年以内、20ヶ月に出来る予定にしていますので平成25年の3月には出来上がる予定です。4月に移転して5月の連休明けには新病院開院にこぎ着けると思います。以上です。

〈重田副会長〉

筑紫病院の方が卒業生が診療部長が半数以上おりますのでどちらかというと我々の意見が反映しやすい病院になると思います。筑紫病院の方もバックアップ体制をよろしくお願いいたします。

◇議題6. 福岡大学医学部同窓会烏帽子会

第29回総会案内

鍋島茂樹先生より説明あり。

原案通り承認

在外研究援助金受給者報告

ピッツバーグ大学に留学して

福岡大学整形外科 前山

彰 (福大大学院生・25 回生)

このたび、私はピッツバーグ大学の整形外科へ昨年4月より1年間留学をさせていただき貴重な経験をさせていただきました。ピッツバーグというところは都会のような田舎のような微妙な都市でしたが、環境的には安心で住みよい町でした。妻と子供二人も大満足だったようです。夏は非常に心地よい町でしたが、冬になると日本では経験出来ないような極寒の地となります、しかも運の悪いことに滞在中の冬はここ15年で一番の大寒波が来て、とんでもない寒さで家から外出することさえ勇気がいるような状態でした。渡米直後はもちろん言葉の壁や文化の違いもあり、いろいろと問題はもちろんありましたが、なんとかクリアしながら研究を始めていくような感じでスタートしました。

University of Pittsburgh Medical Center (UPMC) というところで研究をしていましたが、町中にUPMCという名のつく病院があり、ピッツバーグの産業の大部分を担っているような印象でした。昔の鉄鋼の町という面影はほぼなく、医療の都市という形に完全に変貌していました。私はUPMCの中の

sports medicine という部署の Freddie Fu 教授のもと勉強をさせていただいたのですが、非常に厳格な先生で正直最初は来るところを間違ったかな?と思うくらい厳しかったです。小学生のように怒られたこともありましたが、しかし、研究にも、もちろん厳格で1年でいくつか研究を終えることが出来たのも先生のおかげであったと今では思っております。スポーツ整形に対する姿勢に関しては本当に感心することばかりでした。大学の全ての種類のスポーツに教授の指導するドクターが常に試合に同行し、常に選手の状態をチェックする体制が整っており、教授自身もいつ休んでいるのかと思うくらいほとんどの試合に顔を出していました。ピッツバーグにはアメフトの steelers、ホッケーの penguins というプロのチームもありましたが、もちろん教授の部下がすべて管理している状態で、何度か同行させていただき非常に興味深かったです。週間のスケジュールは火曜に手術(朝7時から)、水曜には朝6時からミーティングがあり、そこではスポーツ医学に関して脳外傷から精神のことにまで討論と研究がされており非常に勉強になりました。それ

以外の曜日には研究をするような過ごし方でした。Fu 教授は、膝の特に前十字靭帯再建の権威で世界中から30人くらいフェローがきていましたが、そのようなフェローとともに私は膝前十字靭帯の再建における膝の回旋不安定性の評価を三次元加速度計を使って解析する研究など、たくさんの研究をさせていただくことができました。今後はアメリカで学んだことを還元すべく努力をしようと思っております。福岡大学同窓会ならびに医局の先生方のお力を借りこのような機会を得たことを心から感謝しております。



デンマークにおける脳死肝臓移植の実際 Rigshospitalet, København, Danmark

福岡大学消化器外科 山本 希治 (助手・26 回生)

まずは僕が留学させていただいたデンマーク王国の紹介をさせていただきたいと思います。

デンマーク王国 (Kongeriget Danmark) はバルト海と北海に挟まれたユトランド半島とその周辺の多くの島々からなる北欧諸国のひとつであります。

皆さま御存じのとおり今年はワールドカップで日本と対戦しており、以前より親しみやすさが生まれている国ではないでしょうか。

かの国に、まことに光栄ながら 2009 年の 3 月から 2010 年の 3 月までの 1 年間留学させていただくチャンスを受けました。初めての海外での生活は全てにおいて新鮮で、刺激的な日々でした。特に異国の国で初めて自分が日本人医師であるという自覚と自負を抱かせていただけた経験は今後の人生において大きな転機になったと思います。

留学先では臨床医として主に肝臓手術、とりわけ脳死肝臓移植手術を担当させていただきました。その一部を御紹介させていただきます。

肝臓手術の流れをお話しさせていただきます。

肝臓移植ドナーが発生した場合、病院にスタッフが集まり救急車に乗り込みます。たいがいの場合遠隔地のため国が用意したプライベートジェット機に乗り込みドナーの病院へ行きます。そして臓器摘出手術を行い、自分の病院へ臓器を持ち帰りレシピエント手術を行います。



写真に写っておりますのは同時期に留学していた新古賀病院外科の馬場先生です。

1 年間の総症例数 240 例

肝臓手術：約 180

(肝臓移植 ドナー：24、レシピエント：34)

膵臓手術：53 (whipple operation：23)

胆管系手術：14

大腸手術：11

食道手術：1

十二指腸手術：1

GIST：1

小腸手術：12

このような貴重なチャンスを頂きました福岡大学消化器外科山下教授他、医局員の皆さま方、並びに貴重な援助をしていただきました福岡大学医学部同窓会の皆様方に深く感謝をいたします。

今後も福岡大学出身の誇りを胸に日々の診療に生かしていきたいと思っております。

どうもありがとうございました。



“恩師であるアンドレ先生(移植指導医)と共に”

意外と楽しいスウェーデン留学生活

済生会八幡総合病院 眼科 井上 浩 利 (25 回生)



留学がスウェーデンに決まったとき、あまりピンと来なかった。スウェーデンという浮かぶイメージとしてはノーベル賞、スカンジナビア半島、寒い、くらいなものだったので。ちなみにスウェーデンは漢字で書くと瑞典。

留学先はストックホルムから飛行機で1時間かかるウメオ市というスウェーデンでも北部の都市にある umeå university の clinical microbiology virology であった。ウメオはaの上に○が付くumeå で、日本のパソコンではキーボードで打てず、メールで送ると文字化けするので面倒くさい。人口11万人の小都市ではあるが北部では最大で、学園都市であるため住民の平均年齢も若く活気がある。

ラボでは急性出血性結膜炎の原因ウイルスであるコクサッキーウイルス A24 変異株のレセプターを探す研究に従事した。アメリカの National cancer institute から分与された60種近くの細胞株にウイルスを感染させ、ウイルス量の違いからレセプター候補を10種近くまで絞り込み検討した。また、同じエンテロウイルス属であるEV71の新しいレセプターとしてPSGL-1が報告されたため発現細胞を分与していただき実験を行った。

生活においては心配していた冬も乾燥しているためか体感温度はそれほど寒く感じなかった。高福祉であり、新型インフルエンザのときには自分たちも早期に無料でワクチン接種ができた。公園が20mくらいおきにあたり、バス内にはベビーカー置き場があり、乗り込みやすいようにバスが傾いたり子育てにも非常に良い環境であった。

在留日本人は、珍しいところでは森林関係の研究者の人もいて、森でとってきたボルチーニやなんとマツタケも振舞ってもらった(いろいろなキノコをとってきており、キッチンで「これは食えん」と吐き出していたので不安もあったが)。全部で30家族くらいしかおらず非常に仲良くなれた。外食は税金のせいもあり高い上にあまりおいしくないため、週末には誰かの家でホームパーティーや、バーベキューをした。スウェーデン人はとてもバーベキューが好きで暖かくなると(といっても気温5度くらい)ダウンジャケットを着てもやり始める。アパートの前にはバーベキューの暖炉が設置されており、夏になるとバーベキュー専用のゴミ箱がゴミ捨て場に設置される。白夜の時期に夜中帰ると寝ぼけたハリネズミなどがうろうろしているところに遭遇することもあった。

1年間という短い期間ではあったが、スウェーデン国民はのんびりしていて親切な人が多く、とても暮らしやすい場所であり留学生活を送れて幸せであった。これからも留学候補にスウェーデンがあがる人がいればぜひお勧めしたいと思う。最後に、留学に際し援助いただきました福岡大学医学部同窓会の皆様には心より感謝いたします。



在外研究報告書

福岡大学病院リハビリテーション部 助教 木 山 貴 彦 (24 回生)

平成 21 年 5 月から平成 22 年 4 月までの約 1 年間、アメリカのジョージア州、Athens Orthopedic Clinic に留学する機会を与えてもらいました。Clinical and Research Fellowship in Hip and Knee Replacement and Reconstruction という肩書きで、膝および股関節の人工関節置換術に関する臨床、研究を中心に勉強させていただきました。日々の内容は、週の 3 日は手術、残りは主に臨床研究に費やしていました。手術は、初日から手洗い(手洗いはさせていただけないと聞いていたのですが)をさせていただき、1 日に約 7 例ほどの手術全てに参加させていただきました。日本人が一人もない施設で、勝手が違うオペ室での日々は最初は大変でしたが、少しずつチームの一員として扱ってもらえるようになりました。最後の 1 ヶ月は執刀までさせていただき、

スタッフの方々の懐の深さと、優しさに大変感激したのを覚えています。1 年間という短い期間でしたが、日本で経験できないような多くの症例数と、異国の地でチームの一員として仕事ができただけで、なにより財産となりました。このような貴重な機会をあたえていただいた同門の先生方に深く感謝申し上げます。



平成 21、22 年度 在外研究援助金受給者名簿

姓 名	回・学年	勤 務 先	地位役職	留 学 先	予定期間	支給額
桑 野 孝 志	25	福岡大学大学院医学研究科先端医療科学系	福 大 大学院生	アメリカ ペンシルバニア大学	1004-1203	20 万円
中 川 元 道	22	福岡大学医学部 消化器外科	助 教	デンマーク、コペンハーゲン 王立病院	1004-1103	20 万円
寺 谷 威	25	舟橋整形外科病院	助 手	ニューヨーク コロンビア大学	1009-1109	20 万円

福岡大学医学部同窓会

在外研究援助金募集

対 象：正会員、準会員及び学生会員（本会会費完納を条件とする）で医学の研究または医療技術の習得のため、3ヶ月以上外国に留学する者

申請方法：所定の申請書により留学出発3ヶ月前までに提出の事

提 出 先：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353 (直通) 代表 092-801-1011 内線 3032
FAX 092-865-9484

援 助 金：1 件 20 万円を限度とし、年間 10 件以内

発 表：その都度、同窓会会報に掲載

そ の 他：①受給者は帰国後その成果を総会で口演するか同窓会会報に発表する事
②申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事

※準会員・学生会員の方もご応募下さい。

教授就任挨拶

教授就任挨拶

福岡大学筑紫病院呼吸器内科 教授 永田 忍彦 (特別会員)



永田 忍彦 教授 略歴

- S54年3月 九州大学医学部卒業
- S54年4月 九州大学胸部疾患研究施設（九州大学医学部呼吸器内科）入局
- S57年 九州大学医学部病理学教室
- S62年 九州大学胸部疾患研究施設
- H2年 産業医科大学呼吸器科講師
- H10年 国立病院機構大牟田病院呼吸器内科医長
- H18年 国立病院機構大牟田病院呼吸器内科部長
- H22年4月 福岡大学筑紫病院内科第二教授
福岡大学筑紫病院内科第二診療部長
- 10月 福岡大学筑紫病院呼吸器内科 教授
福岡大学筑紫病院呼吸器内科 診療部長

はじめまして。福岡大学筑紫病院呼吸器内科の永田と申します。4月より筑紫病院に赴任いたしました。よろしくお願いたします。はじめに簡単に自己紹介をさせていただきます。出身は山口県の宇部市で、昭和48年3月山口県立宇部高等学校を卒業、同年4月九州大学医学部に入学、昭和54年3月九州大学医学部を卒業、同年九州大学胸部疾患研究施設（九州大学医学部呼吸器内科）に入局、昭和57年から5年間病理学教室で臨床病理、実験病理の研究を行いました。その後胸部疾患研究施設にもどり、平成2年に産業医科大学呼吸器科に異動（講師）、平成10年に国立病院機構大牟田病院呼吸器内科に異動（医長、平成18年より部長）し、今年の4月より福岡大学筑紫病院に勤務（教授、内科第二診療部長）となりました。専門は呼吸器内科で、呼吸器疾患全般の診療を行ってきました。九州大学時代に5年間病理学教室に在籍したこともあり、今でも生検材料の標本を自分の目で顕微鏡で見ながら、目の前の患者さんの診断や治療方針を考えています。

福岡大学筑紫病院内科第二はこれまで、呼吸器、糖尿病、血液、総合内科の診療を担当してきましたが、地域支援病院としてより専門性の高い医療を提供するため、本年10月より内科第二は呼吸器内科と内分泌・糖尿病内科に分かれて診療を行う予定で、私は呼吸器内科を担当することになります。当科の診療のモットーは誠実な医療の提供、専門性の高い医療の提供、安全な医療の提供です。患者さんの目線にたつて、安全、良質な医療を提供していきたいと考えております。呼吸器の診療に関して述べますと、今年の4月までは呼吸器科の医師は2名でしたが、4月から私を含めて4名体制になり、マンパワーの面でも呼吸器疾患の診療の充実が図られました。私の他、福岡大学呼吸器内科より2名、九州大学呼吸器内科より1名の医師を派遣いただいています。肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患といった common disease から間質性肺炎・肺線維症、肺癌などの難治性疾患、急性呼吸不全を呈する疾患・病態から慢性呼吸不全を呈する疾患・病態まで呼吸器疾患全般に迅速に対応できるよう体制の整備を進めています。

研究に関してはこれまで間質性肺炎の臨床病理学的な研究、栄養状態と肺結核、非結核性抗酸菌症の臨床所見、予後との関係に関する研究を行ってきました。筑紫病院に赴任してまだ研究には手がついていませんが、筑紫病院は炎症性腸疾患の診療で有名で患者さんもたくさんおられるので、炎症性腸疾患の患者さんに見られる肺病変の検討ができればと考えているところです。

今後とも御指導のほどよろしくお願いいたします。

教授就任挨拶

福岡大学病院医療情報部 教授 志村英生 (特別会員)



志村英生 教授 略歴

S46年4月	九州大学医学部 医学進学課程入学
S52年3月	九州大学医学部医学科 卒業
S52年6月	九州大学医学部附属病院 第一外科医員 (研修医)
S53年4月	九州大学大学院 医学研究科博士課程入学
S57年4月	九州大学医学部附属病院 医員
S60年4月	九州大学生体防御医学 研究所ウイルス学部門 助手
S63年4月	国立小倉病院外科厚生 技官
H3年4月	九州大学医学部 総合診療部 助手
H4年4月	九州大学医学部 第一外科 助手
H6年4月	九州大学医学部第一外科 講師
H9年4月	福岡大学医学部第一外科 助教授
H17年4月	福岡大学病院医療情報部 部長 (兼務)
H19年4月	福岡大学病院医療情報部 准教授・診療部長
H22年4月	福岡大学病院医療情報部 教授・診療部長

4月1日より、福岡大学病院の医療情報部教授を拝命いたしました。私は地元福岡の修猷館高校を卒業して九州大学医学部に入学、卒業後九大第一外科に入局しました。臨床研修ののち、九州大学の生体防御医学研究所 (昔の癌研究所) で基礎研究を始めました。当時は、発癌が遺伝子の変異によるというイメージはあるものの、その原因が全くわからなかったときで、確実に癌を引き起こすウイルスのがん遺伝子研究がその先陣を切っていました。ウイルスを増やすには細胞の培養が必要で、細胞生物学の始まりとその後の分子生物学の発展を肌で感じることができました。研究を終えてしばらく北九州の病院での外科の臨床を行い、平成3年九大に戻りました。大学では柏木征三郎教授の総合診療部にて診療をし、多くの内科の先生たちと友人になれ大変良い経験をしました。外科に戻ってからは膵胆道癌の浸潤や転移の研究をしました。「がんの浸潤や転移はがんと間質の相互作用による」という新しい概念がいろいろなサイトカインの発見により提唱され、その一つの肝細胞増殖因子の研究は大変心躍るものでした。臨床では田中雅夫先生が教授となり低侵襲な外科治療を推進、その一員として多数の腹腔鏡手術をさせていただきました。平成9年に池田靖洋教授の福岡大学第一外科に参りました。内視鏡手術は多くの腹部手術に広がり、癌の治療法としても認知され、大腸がんや胃がんを中心に多くの治療をしその有効性・安全性が明らかになりました。この間、世の中のICT革命はめざましく、病院の効率化を目指して電子カルテの導入が進められています。当時、医療情報部長の瓦林先生 (現副学長) のもとで医療情報部の仕事を始め、福大病院への電子カルテ導入や高速ネットワークの構築、無線 LAN 環境の整備などに関わってきました。これからの医療情報部においては、電子カルテの維持だけでなく、診療の効率化、情報の見える化、連携の推進や情報再利用などが重要です。これまでの経験を生かして、ICTを基盤に各職員の業務負担の軽減や新しい視点の発見やその解析と提案を通じ地域と大学の発展に微力を尽くそうと思っています。よろしくご協力ご支援をお願いいたします。

教授就任挨拶

福岡大学筑紫病院内分泌・糖尿病内科 教授 小林 邦久 (特別会員)



小林 邦久 教授 略歴

- S56年 3月 山口県立宇部高等学校卒
- S63年 3月 九州大学医学部医学科卒
- S63年 6月 九州大学医学部附属病院医員(研修医)
- H元年 6月 九州労災病院内科(研修医)
- H2年 6月 九州大学医学部研究生(第三内科)
- H4年 4月 九州大学医学部附属病院医員(第三内科)
- H6年 4月 糸田町立緑が丘病院内科医長
- H6年 9月 米国バイラー医科大学 postdoctoral fellow
- H10年 7月 医療法人親愛天神クリニック 内科
- H11年 4月 国立病院九州医療センター 代謝内分泌内科
- H14年 6月 九州大学大学院医学研究院病態制御内科学 助手
- H21年 10月 九州大学病院内分泌代謝・糖尿病内科 助教授 兼 九州大学医学部 講師
- H22年 10月 現職

福岡大学医学部同窓会のみなさまへご挨拶申し上げます。

2010年10月1日をもって福岡大学筑紫病院の内科第二(内分泌・糖尿病内科)教授として赴任いたしました。まだ勤めはじめたばかりですが、外来・病棟ともに各科の間の垣根が低く、非常に働きやすいと感じております。また患者さんのために先生方やコメディカルの方々が献身的につくしておられる姿に大変感激しております。

自己紹介をいたします。昭和63年に九州大学卒業後、九州大学医学部附属病院・九州労災病院で2年間の臨床研修を行いました。その後九州大学医学部附属病院で研究生・医員、そして糸田町立緑ヶ丘病院勤務の後、米国バイラー医科大学(Lawrence Chan教授:テキサス州ヒューストン)に留学いたしました。帰国後、天神クリニック・九州医療センターに勤務した後、助手として九州大学に帰学し、助教講師を経て、福岡大学にお世話になることとなりました。主な研究分野は糖尿病状態における細胞内および全身の糖代謝-脂質代謝連関と動脈硬化症発症機序に関するものです。今後はこの分野を含めた糖尿病血管合併症の発症・進展機序について広く臨床および基礎研究をおこなっていきたくと考えております。

このたびは科の創設という素晴らしい機会を与えていただき、おおきな喜びとともにまた責任も感じております。そのなかで糖尿病・内分泌という枠組みにとらわれず、高い倫理観をもって、患者さんの身体的・精神的、そして社会的な面も含めた全人的医療をおこなっていきたくと考えております。また教育面ではチーム医療の中心となれるリーダーシップおよびリスク管理能力をもつ次世代の医師を育てていければと考えます。

生活習慣の変化とともに激増の一途をたどっている糖尿病は、現在予備軍もあわせて約2210万人いるとされ、四疾病五事業のひとつとなっています。糖尿病の発症・重症化の予防のためには地域医療連携の発展・充実が必須です。福岡大学筑紫病院は全国で初めて地域医療支援病院となった大学病院です。今後、福岡県の糖尿病医療においても病診連携・病病連携の重要なハブのひとつとなっていくべく、いっそう精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

学生対策報告

学生対策事業報告

〔新入生歓迎会〕

学生担当理事 二 田 哲 博 (9回生)

平成22年5月28日(金)福新樓において、毎年恒例の新入生歓迎会が開催されました。

本年度の新入生のほとんどが参加し、理事、担任、副担任の先生方も多く出席され、盛大な会となりました。

「これからの学生生活をどのような気持ちでおくるべきか。」

「医師になるための勉強は大変難しく、覚悟を持っ

て臨む必要があるが、勉強ばかりではなく、様々な経験を積み大きく成長してほしい。」

「ここにいる皆が医師を目指して勉強し、将来同じ職業に就くわけなので、力を合わせ助け合っていくしてほしい。」「今年の医師国家試験の合格率は大変悪かったので、皆さんは気を引き締めて頑張らなければならない。」など、先生方から学生の皆さんへ期待をこめた様々なエールが送られました。

それに応え、学生代表からもこれからの学生生活への希望と覚悟が感じられる力強いメッセージが読み上げられました。

懇親会では先生方と学生の皆さんの会話も大いに弾み、和やかな雰囲気の中閉会となりました。

今年の新入生が100%国家試験に合格し、立派な医師として活躍されるよう強く望むとともに、同窓会として彼らの力となるようバックアップしてまいりたいと思っております。



新入生歓迎会

〔M6 国試激励会の報告〕

専務理事 松 永 彰 (3回生)

6月11日(金)に、ホテルモントレ ラ・スール福岡で行われた激励会には、高木会長を始めとして多くのOBの先生のご参加を頂いた。また、多数の国試対策委員、副担任の先生方のご出席も頂いた。講演をお願いした精神神経科の永井宏先生のお話も大変好評で、当日担当したM6田中敬太君も学生への呼びかけや当日の司会進行など大変よくまとめてくれたので良い激励会となった。



国試激励会
烏帽子会会報 2010 年秋号 31

〔医師国家試験対策夏期集中講座報告〕

専務理事 松 永 彰 (3回生)

M6夏休み入り直後の7月23日(金)～25日(日)の3日間、六本松の福岡大学セミナーハウスで医師国家試験対策夏期集中講座(90分×16コマ)が行われた。学部長の参加は頂けなかったが、23日の懇親会には高木会長を始め多数のOBの先生方のご参加を頂いた。参加学生は17名と例年より少数であっ

たが、自治医科大学の河野正樹先生からも講義に非常に手応えがあったとの感想を頂いた。講義をして頂いた他の先生方とのコミュニケーションも良く、参加した学生はみんな非常に熱心に受講し、教える先生も持ち時間いっぱい講義をされ、非常に濃い内容の集中講座となった。

平成22年度烏帽子会主催福岡大学医学部 M4年生CBT激励会を終えて

専務理事 竹 下 盛 重 (3回生)

2010年9月3日(金曜日)、薬院、タカクラホテルにてM4年生85名、M4副担、烏帽子会員15名とともにCBT激励会を行いました。

初めに、現在姪浜駅近くで二田哲博クリニック(主に甲状腺疾患、糖尿病)を開業されています二田哲博先生(9回生)に「夢を実現する仕事術」というテーマで約1時間のお話を頂きました。二田先生の疾患を理解しようとする意欲、非常に積極的な患者への対応、患者さんに少しでもよりよい生活をしていただくという気持ちが出ており、学生ともども感動いたしました。

その後は、鍋島茂樹先生(13回生、副担任)指導のもと、M3年生七隈祭実行委員長の雪野満君が司会、進行役となり、懇親会が行われました。

その中で高木忠博会長、宮本新吾産婦人科教授、井上隆司生理学教授、鍋島茂樹総合診療部准教授、松下満彦精神科講師(副担任)、林英之眼科教授、

重田正義副会長等よりアドバイスを頂きました。大学内外で卒業生が活躍していること、大学を盛り上げてほしいこと、また各自友人を大切に、じっくり病態を考え勉強し、いい医師をめざしてほしいという内容であったと思います。また、学生からは、CBT試験に対するこれからの姿勢、九山、西医体の報告、七隈祭実行委員による開催、協賛の挨拶がありました。最後は全員で校歌斉唱、そしてラグビー部元主将馬渡大介君の一本締めで終わりとなりました。

M4年生にとって、この会は恒例となり浸透してきました。また、学生にとりみんなでまとまって話をする数少ない機会になっているようです。学生が主体になり、輪が広がり、各自将来の糧になる会になればありがたいと思います。

また、M5年生でBSLを行うにあたり、今まで修学した医学のまとめの時期でもあり、大きな自覚、自学のきっかけになったのではないかと思います。

会員寄稿

ボストンの日本人医師コミュニティ ～移植医療との異分野連携研究～

東京大学医学部 形成外科・美容外科 三原 誠 (25回生)

ハーバード大学移植外科・河合達郎准教授(マサチューセッツ総合病院)との共同研究のため、2010年5月7日から6月10日までボストンに滞在している。今回で5回目の滞在である。私たちの共同研究プロジェクトは2つ。1つめのプロジェクトは、免疫寛容導入と複合組織移植研究。これは現在話題の顔面移植や四肢移植を免疫抑制剤無しに行おうとする治療法である。まだまだ越えるべきハードルは高いが、非常にやりがいのある仕事である。2つ目のプロジェクトは、過冷却臓器凍結保存研究である。この研究を実験大動物(ブタ・カニクイザル)で行うには、ここボストンに来るしかない。今回はこれらの研究をより具体的に進めていくための打ち合わせと研究体制整備が目的である。

ボストンにはハーバード大学やMITといった世界最先端の研究施設が揃い、学術連携が非常に盛んである。今回の我々の共同研究も日本の強みと、アメリカの強みを最大限に活かしたプロジェクトである。対して、日本では各大学、各学部、各科を超えた異分野連携研究は苦手としている場合が多い。私が勤務している東京大学でもその傾向は強い。しかしながら、このボストンの日本人医師コミュニティはそんな各科の垣根など全く感じさせない。私、形

成外科医を始めとして、京都大学呼吸器外科医、慶応大学小児外科医、東京女子医科大学腎臓外科医、札幌医科大学心臓外科医、日本医大泌尿器科医と日本では到底出会わないようなメンバーがチームを組んでいる。皆「移植」という旗印の下、力を合わせて着実に研究を進めている。今回の写真は、彼らが開いてくれたウェルカムパーティーの時の写真である。国境の垣根を越え、大学の垣根を越えて、各科の垣根を越えて連携し、新しい医療を切り開いていく彼らに多くのパワーをもらいました。

写真右から5人目が著者。2年前の滞在時は、Brigham and Women's Hospitalで研究されていた小玉正太先生(福岡大学再生移植医学講座・准教授)から、この地で叱咤激励を頂いたことが大変懐かしい。



移植医療の新しい一歩 ～移植法改正後、初の脳死肝移植を経験して～

東京大学医学部 形成外科・美容外科 三原 誠 (25回生)

東京大学形成外科では、日常的に肝移植における肝動脈吻合を担当している。肝動脈吻合自体は、肝

移植手術手順の一部に過ぎないが、吻合の失敗が即「術死」に繋がる可能性もあるため、大変にやりがい

キャンパスだより

《平成 22 年度 烏帽子会賞受章者名簿》

年月日	受賞者	受賞対象
22.6.25	ラグビー愛好会	平成 22 年度第 49 回九州山口医科学生体育大会 ラグビー部門準優勝
22.6.25	バスケットボール愛好会	平成 22 年度第 49 回九州山口医科学生体育大会 バスケットボール部門優勝
22.6.25	準硬式野球愛好会	平成 22 年度第 49 回九州山口医科学生体育大会 準硬式野球部門優勝
22.6.25	ゴルフ愛好会	平成 22 年度第 49 回九州山口医科学生体育大会 ゴルフ女子部門準優勝
22.6.25	サッカー愛好会	平成 22 年度第 49 回九州山口医科学生体育大会 サッカー部門優勝
22.6.25	硬式庭球愛好会	平成 22 年度第 49 回九州山口医科学生体育大会 硬式庭球女子部門優勝
22.6.25	竹山文徳	平成 22 年度第 49 回九州山口医科学生体育大会 柔道部門中量級優勝
22.6.25	松本徳彦	平成 22 年度第 49 回九州山口医科学生体育大会 柔道部門軽量級 2 位
22.6.25	水泳愛好会	平成 22 年度第 49 回九州山口医科学生体育大会 水泳女子部門 2 位
22.6.25	フットサル愛好会	平成 22 年度第 49 回九州山口医科学生体育大会 フットサル部門優勝
22.6.25	アーチェリー愛好会	平成 22 年度西日本医科学生アーチェリー競技大会男子部門優勝
22.6.25	アーチェリー愛好会	平成 22 年度西日本医科学生アーチェリー競技大会女子部門優勝
22.10.15	柔道愛好会	第 62 回西日本医科学生総合体育大会 柔道部門団体 4 位
22.10.15	莖田美佳子 中川丞子	第 62 回西日本医科学生総合体育大会 バトミントン部門女子個人戦ダブルス 3 位
22.10.15	児玉英也	第 25 回全日本医科学生アーチェリー競技大会個人 3 位
22.10.15	水泳愛好会	第 62 回西日本医科学生総合体育大会 水泳部門個人メドレーリレー 4 位
22.10.15	高岡千容	第 62 回西日本医科学生総合体育大会 水泳部門個人 2 種目 2 位
22.10.15	バレーボール愛好会	第 62 回西日本医科学生総合体育大会 バレーボール女子部門準優勝



烏帽子会賞受賞の面々 第 29 回総会で表彰を受ける

烏帽子会賞を受賞して

福岡大学医学部柔道愛好会 松本徳彦 (M6)

最初に烏帽子会賞を与えてくださった同窓会の先生方に感謝いたします。ありがとうございます。私は今回九州山口医科学生大会柔道部門個人戦軽量級2位という結果でしたが、今回を含め2位が二回3位が三回と九山の個人戦で優勝した経験がありません。今回は悲願の優勝を目指して最高の努力をしました。しかし、いくら願っても努力しても叶わない現実があることをこの身をもって知りました。たかが医学生の試合であろうと真剣勝負には変わりありません。私はどんなに小さなことでも、他人から見ればバカバカしいことでも、目標に向かって努力し、挑み、勝つことが重要だと考えています。今回は負けてしまいましたが、次に控えている国家試験という勝負には確実に勝利したいと考え、日々努力し

ております。これで15年になる私の柔道選手としての人生は終わりとなります。今までお世話になった柔道部の先輩や先生方、わがままな私についてくれた後輩たち、そして柔道に感謝します。ありがとうございました。



九山、西医体を終えて

福岡大学医学部柔道愛好会 竹山文徳 (M4)



こんにちは、医学部柔道愛好会4年生の竹山文徳です。僕は、今年の4月に行われた九州山口総合体育大会柔道部門の個人戦中量級で優勝しました。これで1年生の頃から数えて4連覇した事になります。

僕は昔から、試合の約2ヵ月程前から体づくりを開始し、どんどん練習も追いこんでいくのですが、大学4年生にもなってくると、やはりスタミナ面で落ちてきて、柔道に関しても技のきれもなくなってきました。実際、昔までは開始後すぐに決めることができる試合が多かったのですが、今では一試合一試合必死に戦っているのが現状です。今回の個人

戦も何とかぎりぎり優勝できましたが、接戦が多く、自分の思い通りに体が動かなかったことは、正直言ってショックでした。しかし、今回優勝したことで、今まであまり興味がなかったのですが、どうせなら6連覇したいという思いが強まってきました。自分はこのような現状ですが、何とか泥臭くてもいいので来年、再来年ともに優勝できるように練習していきたいと思えます。

又、団体戦の方は、九山が3位になり西医体はベ

スト4という結果になりました。西医体に関しては、運もよかったのですが、何より後輩達の著しい成長が、これらの結果を決定づけた大きな要因です。そして久しぶりにみんなで勝つ喜びを味わわせてもらい、愛好会のみなさんには感謝しています。

これからも、もっといい結果が出せるように日々練習していきますので、竹下先生を始めとするOBの先生の方々の、ご支援、ご指導の程よろしく願いいたします。

主管優勝！！

福岡大学医学部バスケットボール愛好会 杉本一樹 (M4)

今年の九山は、福岡大学医学部バスケットボール部にとって最高の形で締めくくることができました。九山の優勝は、福岡大学にとって何十年かぶりの快挙だったので、最高の瞬間に最高の仲間と共に味わうことができ、これ以上ない経験をさせてもらったと感じています。

端的に結果を報告させていただきますと、初戦は熊本大学と対戦し59対53で勝利、次に佐賀大学と対戦し60対64で負けてしまったのですが、熊本大学一佐賀大学で熊本大学が勝ったため、Aグループで3チームが1勝1敗で並び、得失点差の関係で福岡大学がAグループを1位通過しました。決勝トーナ

メントに上がり、準決勝は九州大学と対戦し76対69で勝利、決勝は大分大学と対戦し65対38で勝利し、見事優勝しました。女子も4位という好成績を残しました。

このように、今年の九山は男女共に素晴らしい結果で終わることができました。これも運営に携わった後輩達、応援に来て下さった福大のみなさん、顧問の田中先生をはじめ、OB・OGの先輩方のご支援ご協力あってこそのものだと思っています。これからも部員一丸となって練習に励んで参りますので、変わらぬご指導ご支援の程宜しく願い致します。



準硬式野球

福岡大学医学部準硬式野球愛好会 鈴木 正 弘 (M4)

準硬式野球愛好会は、今年5月に開催された第49回九州山口医科学生大会において優勝という結果を取ることができました。89年以来21年ぶりの優勝ということで、OBの先生方から多くの祝福のお言葉をいただき、温かいサポートを受けていると改めて実感し、選手・マネージャー一同感謝の気持ちでいっぱいです。

決勝戦は、9回裏2アウト満塁から、2点差をひっくり返しての劇的な勝利でした。練習でしてきたことをしっかりと出し切ることができた結果だと思っています。しかし、簡単に練習ができていたわけではありませんでした。昨年の秋頃に今まで使用していた場所が使えなくなり、週に1日しかバットやボールを使った練習ができずに絶望的でしたが、黒木医学部長や顧問の岩崎昭憲先生や事務課の方々のご厚意により、ソフトボール場横

の使用されていなかった場所を練習場として確保していただきました。

このような方々やOBの先生方の支え無しでは成し遂げられなかったと思います。本当にありがとうございました。これからも周りの期待に応えられるように努力していきたいと思いますので、よろしくお祈りします。



ゴルフ愛好会

福岡大学医学部ゴルフ愛好会 山 田 祐 莉 子 (M4)

今年の九山では女子団体準優勝を飾ることができ、部員一同とても喜んでます。

今回は福岡大学が主幹校でしたので、準備などが忙しく慌ただしく大会を迎えることになりました。試合前日も遅くまで仕事がありましたが、私たちは、それぞれが実力を十分に発揮できれば上位に入れる、という希望を胸に試合に臨みました。難しいコースで思い通りのプレーができず何度も諦めそうになったので、試合を終え自分達が準優勝だと分かった時はとても嬉しかったです。女子個人では2人が入賞を果

たし、とても充実した大会になりました。

ゴルフは個人競技です。だからこそ私達は日々の練習の中で部員同士の交流を大切にしており、共に向上し合い一致団結できる、そんな部活を目指しています。今回も試合には出ずに仕事に徹してくれた部員の協力と支えがあったからこそ準優勝という結果に繋がったと思います。

現在ゴルフ部には男子21人、女子17人が所属しており、私が入部した頃に比べると人数も増え、大変な面もありますがとても活気に溢れています。また、

去年の冬からは週に一度プロの指導を受け、技術の向上に努めています。

最後になりましたが、顧問の内藤先生をはじめ、O

B・O Gの方々には日頃から御指導、御支援頂きまして心から感謝申し上げます。これからどうぞ宜しくお願い致します。



九山初優勝

福岡大学医学部サッカー愛好会 石川真史 (M4)



今年の九山は福岡大学が主管のもと行われました。九山では一度も優勝経験が無いこともあり、今年は絶対に優勝しようとチームみんなで厳しい練習を乗り越えてきました。

一回戦、二回戦、準決勝と終始安定した試合運び

で勝ち進み、迎えた決勝戦、相手は去年の九山の覇者、九州大学でした。お互い負けられないという想いが強く、序盤から激しいボールの奪い合いとなり、一進一退の攻防が続く中、福大が先制点をあげました。しかし九州大学も意地を見せ、同点にされます。試

合はそのまま延長戦へと進み、延長後半、遂に待望の2点目をもぎ取ります。それが決勝点となりサッカー愛好会が創設されて以来初の九山優勝を果たすことができました。

今回このような成績を残せたのも、プレーヤーもマネージャーもチーム一丸となって大会に臨み、又、見

事大会運営を務めてくれたメンバー、そして応援に来てくださったOB、OGの方々のおかげです。ありがとうございました。

最後に、烏帽子会賞を表彰してくださった高木忠博会長、本当にありがとうございました。これからも一層、文武両道頑張っていきたいと思います。

16年ぶりの優勝カップ奪還！！

福岡大学医学部硬式庭球愛好会 大山 かほり (M4)

去年は悔しくも準優勝、今年は主幹ということもあり、優勝を狙っていこう!と臨んだ第49回目の九山は、狙い通りの優勝という素晴らしい結果で終わることができました。いつもあと少しというところで取り逃がしていた優勝カップをやっと手にすることができ、本当に嬉しく思っています。

嬉しい一方で、悲しいこともありました。この九山で、女子部は6年生4名全員が引退され、部が少しさびしくなりました。今のテニス部が明るくて楽しいのも、6年生の方々が作ってくださった雰囲気のおかげです。ありがとうございました。

最後になりましたが多くの皆さんの応援があつての優勝です。特に会場まで駆けつけてくださったOB・OGの方々、連日見に来てくださった池田先生、安西先

生、井上先生、本当にありがとうございました。今年の西医体はシード校ながら3回戦敗退という不本意な結果に終わりましたが、九山で優勝した感動を思うと「負け」というのは本当に悔しく、残念でなりませんが、この経験を生かし、次の九山では連覇できるように、部一丸となって頑張りたいと思います。現顧問の井上先生をはじめ、OB・OGの皆様、今後もよろしくご指導のほどよろしくお願いします。



西医体優勝によせて

福岡大学医学部アーチェリー愛好会 児玉英也 (M4)

烏帽子会に原稿を書く機会をいただいたので、まずはアーチェリーについて説明をしたい。

アーチェリーは基本的に屋外で行うスポーツなので、当然天候の影響を受ける。風で矢が左右に流れたり、雨で飛距離が落ちたりするが、そんな状態でも競技中止になることはない。中止になるときは雷が鳴ったときだけだ。

競技内容は2年生以上の男子は30m・50m・70m・90m、女子は30m・50m・60m・70mの距離を射る。50mでも「遠い!」と驚かれるのだが90mとなるともっと大変だ。初速約250kmで飛び出す矢は2秒後に的に到達する。当然矢が見えるはずもなく、的に当たったかどうかは音だけが頼りで、当たった場所はスコープで確認するのが一般的だ。

アーチェリーは競技人数が少ないため、皆の九山が私達の西医体に相当する。とは言っても個人競技なので、そこで上位になることは簡単ではない。その中でも近年、福大は団体優勝や個人優勝などの成果を挙げている。このような皆の頑張りがあるからこそ、私自身も今回の西医体で優勝できたと思っている。

最後にこの文章を読んでアーチェリーに少しでも興味を持ってくれる人が増えれば、と願っている。



西医体を終えて

福岡大学医学部水泳愛好会 前田奈々恵 (M3)

今年の西医体では、私たち水泳愛好会は女子200M個人メドレーリレーで四位入賞、各個人競技でも四種目入賞することができました。リレーは一年生を迎えての新チームとなり去年とは違うメンバーだったので、どこまでいけるのかという挑戦の気持ちで臨みました。その挑戦が見事結果として現れたので、とても嬉しく思います。リレーは個人種目と違って自分のタイムが遅くなればチーム全体のタイムに響くので、とても責任を感じる種目です。私だけでなく、メンバーみんなが同じようなプレ



ツッシャーの中で戦っていたのではないかと思います。

練習中メニューをこなすのが苦しい時もありました。今日はもう泳ぎたくないと気分が乗らない日もありました。しかし、部員みんなが声をかけあって励まし合うことで日々の練習を乗り越えてこられました。実際、練習中は和気あいあいとした感じであまり重苦

しくないところも私たちサークルのいいところだと思います。ここまでの好成績を残せられたのも、このように部員が一丸となって日々の練習に楽しく励める雰囲気、今までご支援してくださったOBの方々のおかげでもあると思います。これからも私たち水泳愛好会をよろしくお願いします。

「西日本医科学学生体育大会バドミントン部門 個人戦ダブルス第3位」を達成して

福岡大学医学部バドミントン愛好会 中 川 丞 子 (M2)

この度は烏帽子会賞を授与していただき、誠にありがとうございます。西医体の結果共々、未だに信じられない気持ちです。

正直、今回は運の良さもあり、実力以上の結果を頂いたように思いますが、このチャンスを生かすことができたのは、日々の練習のおかげだと感じていま

す。

これからはこの結果を実力として得られるよう、さらに練習に励んでいきたいと思っています。

最後に、未熟な私に指導、応援をしてくださったみなさんに心から感謝しております。ありがとうございました。

福岡大学医学部バドミントン愛好会 莖 田 美佳子 (M3)

この度は烏帽子会賞という名誉ある賞を頂くことができ、とても嬉しく思っています。

自主練やランニングの成果も小さく、まだまだ実力不足だったので、西医体での好成績は私達自身も未だ信じられません。勉強や遊びと両立しながら努力してきたという自信、ペアを信じる気持ち、愛好会

員の声援など、いろんな積み重ねがこの結果に繋がったのだと思います。

来年の九山や西医体に向けて、今回感じた喜び、悔しさ、周りの人への感謝の気持ちを忘れずに、日々精進していきたいと思っています。



訃 報

正 会 員	上 野 裕 史 先生	平成 22 年 5 月 14 日	ご逝去 (10 回生)
特別会員	都 温 彦 先生	平成 22 年 6 月 23 日	ご逝去 (歯科口腔科学)
正 会 員	原 真 介 先生	平成 22 年 7 月 2 日	ご逝去 (32 回生)
正 会 員	小 川 巧 美 先生	平成 22 年 7 月 6 日	ご逝去 (16 回生)
正 会 員	合 屋 和 弘 先生	平成 22 年 9 月 28 日	ご逝去 (9 回生)
特別会員	三 好 萬 佐 行 先生	平成 22 年 10 月 6 日	ご逝去 (解剖学)
特別会員	高 岸 直 人 先生	平成 22 年 10 月 10 日	ご逝去 (整形外科)

終生歯科心身医療を問われた都温彦名誉教授

福岡大学医学部医学科歯科口腔外科学講座 教授 喜久田 利 弘 (特別会員)

2010年6月23日、都歯科口腔外科名誉教授が享年75歳で食道癌にてお亡くなりになりました。教室を代表してここに謹んで哀悼の意を申し上げます。

都名誉教授は、1959年に九州歯科大学をご卒業、直ちに東京医科歯科大学歯学部の臨床全科2年制に入学されました。医科歯科大学各科での修練はとても興味あるものと述べられていました。しかし、治療学が先行するのは当然のことですが、患者さんのこころの気配りはさらに重要な課題であると考えられました。そのこともあり1961年、九州大学医学部の外科学専行博士課程の大学院に入学され、歯科で時々起こる脳貧血の研究に没頭されたとの事でした。九州大学の医学部でも心身医学は内科系で研究され始められていたそうです。この大学院での研究は先生の終生のライフワークである歯科における心身医療につながっています。

1971年9月、都名誉教授は福岡大学暫定病院香椎病院歯科口腔外科に助教授として赴任されました。ほかの初代教授職の先生方と医学部の立ち上げにご奮闘されたとうかがっております。1983年には、診療科から医学部の講座になり、先生は教授とな

られました。

医学部病院の歯科は、歯学部病院の細分化された診療科と異なり、口腔領域全般の疾患を診る必要性があり、当所は多忙で休む暇がなかったとうかがっています。その診療の中で都先生の研究は一貫して歯科心身症を貫き、臨床とは別の研究の柱を築かれました。それは常に医局員に言われていた「文化しなければ、その成果はだれもわからない」でした。つまり大学人は研究成果を文章にして雑誌に載せなければだれも評価してくれないということでした。「専門は異なれど、文章化することが文化だ」と良く言われておられました。

1990年から、口腔外科疾患治療の補佐役として、現九州歯科大学の学長、理事長職の福田仁一先生が3年間助教授として在籍しておられました。多忙な都名誉教授の手足となって口腔外科治療に奔走されたとうかがっております。

1994年12月から私は福田先生の後任として福岡大学に赴任いたしました。この人事が内定した際、都名誉教授は大変お喜び下さいました。私の赴任の前に先生の還暦祝いがあったのですが、私をその会

に招待していただき赴任前の私を壇上で福岡大学の関係者に紹介するという異例といえる紹介がありました(写真)。そこから11年にわたる先生との師弟関係が始まったといえます。

都名誉教授は、「大学人は専門性を高く持たねばならない」と良く言われていました。「喜久田君の専門は口腔外科だよね。その中でも何が専門性かね」と尋ねられたことがあります。「咬合に関する顎変形症や顎骨骨折などの顎外科手術です」と返事した記憶があります。専門は異なりますが、毎週行われる症例カンファランスでは先生の知識が湯水のように出て私の発表を詰まらせることが多々ありました。そのおかげで私は、あくまでも十分な基礎知識に基づき口腔手術の実践に向うという医療人の基盤を教わった気がいたします。今でも毎月曜日に研究会、水曜日に抄読会と症例カンファランスは伝統的に行なっています。また、生検病理についても厳しく追及されることが多く、その教訓から現在、毎金曜日の医局会の後に生検病理カンファランスを行なうようになっております。この教えは先生の言葉、「なぜその病気が起こったのですか」の質問から始まっています。医療人、研究者たるもの病因を考えなければ病気を駆逐できないだろうという意識から始まっています。もちろんこれは医療の基本ですが、治療学ばかりに専念してはならないという教訓です。

ある日、歯科治療が怖くて開業医にかかれぬ患者が来院されました。患者さんは10数本もの抜歯を必要とする状態でした。「喜久田君、君ならどうする」と質問されて、「恐怖心が強い患者さんなので鎮静法を併用して抜歯します」と返事をしました。「でもね、今回はそれで上手く治療できても、この患者さんは一生、他の開業医の先生にはかかれぬよ。義歯も作れず、物も噛めないよ」といわれました。「歯科治療に対する恐怖心を減感作や脱感作しないと治療にならないだろう」と強く指摘されました。全くその通り

で、その場の治療ができて患者さんが現に持たれている歯科治療が怖くて開業医にかかれぬという病気は治すことができていないということに気がつきました。そこで、優しく不安のない簡単な治療から開始し、全身麻酔、静脈内鎮静法や笑気を用いて恐怖心を減感作していく治療を行ったことを覚えています。これは都先生の歯科における心身医療の原点を感じた福岡大学赴任1年目のことでした。

今でも患者さんの気持ちを第1に考えた歯科口腔外科手術を念頭において医療に向っています。

都先生、私の不足していた多くの知識、言動やその他の沢山のことを教えていただき本当にありがとうございました。感謝しても尽くせ得ぬことですが、天の国から時々、影の言葉をかけていただければと思います。

大学医学部 歯科 教授 還暦 祝賀



都温彦名誉教授の還暦祝賀会

送る言葉 我々の恩師、都温彦先生へ

福岡大学医学部病理学 教授 竹下盛重 (3回生)

平成 22 年 6 月 23 日夜 7 時、都先生は、ご家族の見守る中、スタッフの見守る中、静かに生涯を閉じられました。我々、後輩には早すぎる死ですが、静かに穏やかに息を引き取られました。

先生と私、私たち柔道愛好会部員の出会いは、もう 30 年を超えました。先生が柔道を大好きだとわかり、我々の福岡大学医学部柔道愛好会の顧問になっていただき親密なお付き合いが始まりました。

我々の愛好会は当然歴史もなく、部員も少なく低迷期が続いて非常に弱い時期がありました。私は監督で、もうこんな中途半端なクラブはつぶした方がいいとっておりましたが、先生はその都度我々を諭し、いつか良いときが来るから続けていこうと言いつけておられました。

それから約 25 年が過ぎ、やっと西日本、九州山形の医科学生大会で上位を狙え、数年前九山で 2 年連続団体優勝ができました。先生のいわれた持続する力が結集して、この優勝につながったと思います。優勝の瞬間は、道場で先生も大変喜んでいただき、恩返しをすることができました。

個人的には、皆さんもご存じの様に、先生はお話好きで、我々後輩を食事によく誘っていただき、いろんな話をじっくりしていただきました。

格言がお好きで、中でも天地人、天の時、地の利、人の和を大切に、いつか良い日が来るから日々努力していこうとっておられました。いろいろと格言を教えてくださいましたが、失念してしまいました。その中で、草根の話を微かに覚えております。花は、美しく輝いているが、すぐに枯れる、摘み取られる。草は、踏まれても、雪は降っても枯れることなく、新しい息吹をもたらす。このような強い人間になっていこうとっておられました。

また、先生は非常にウイットに富んだ方で、ちょっとした言葉で我々を和ませてくれました。先生は、我々に人生の楽しさと後に続く人達の育て方を教えてくれていたのだなと今になって思います。

さて最後に先生は 1 年半前に頸部食道がんになられて大手術をされましたが、その時の治療の体験を「与えられ生かされた^{いのち}生命をよろこぶ」という手記にされました。ご自分の体験が今から癌になる患者さんの勇気と安心につながれば良いと、入院中よりこの原稿を書かれていました。また、その後も担癌者の気持ちや少しでも知ってもらおうと医療関係者の前で体験や現在の心境を講演されました。

今回の平成 22 年 3 月からの入院においても、5 月までに非常にお元気で、私が今の状況の不平を話しますと、ベッドの横で暖かいアドバイスをいただきました。その後、段々と状態が悪くなり、皆様の介護の中、お亡くなりになりました。先生は、最後まで我々に勇気付けと不快な印象を与えない気遣いをされておられました。ご逝去後、ご家族に許可を得て剖検をさせていただきましたが、かなりの癌の進展が有りながら、ごく最近まで明るく振る舞い、私たちをもてなし、お話ししていただきました。この博愛の精神にはいいようがありません。

お友人が多く、そして後輩思いの都先生。名前の通り温かい人でした。

最後になりましたが、先生に感謝し、献杯、さよなら、そして安らかにお休みください。これまでおつきあいいただきありがとうございました。

平成 22 年 9 月

福岡大学医学部病理学 教授 竹下盛重

福岡大学医学部同窓会諸表

平成 21 年度収入支出決算

区分	科 目	21 予算 :A	21 決算 :B	21 決算予算比較	決 算 内 訳
収 入	繰 越 金	12,000,000	11,175,942	▲ 824,058	
	会 費 収 入	25,752,000	25,946,975	194,975	入会費:5,532,590 学年会費:4,353,780 年会費:15,917,885 準年会費:142,720
	協 賛 金 収 入	0	0	0	
	手 数 料 収 入	235,000	221,570	▲ 13,430	生命保険
	雑 収 入	120,000	42,927	▲ 77,073	同窓会グッズ
	預 り 金 収 入	160,000	171,910	11,910	
	積 立 金 繰 入	5,000,000	0	▲ 5,000,000	
	仮 受 金	0	0	0	
	借 入 金	1,000,000	1,000,000	0	
	合 計	44,267,000	38,559,324	▲ 5,707,676	
支 出	給 与	4,177,000	4,597,760	420,760	事務局 3 名
	旅 費	1,904,000	1,737,150	▲ 166,850	役員旅費:573,690 評議員会:428,060 私大連絡会:179,900 その他:555,500
	事 務 用 品 費	300,000	300,733	733	
	印 刷 費	7,240,000	2,020,499	▲ 5,219,501	会報:1,904,049 封筒:69,300 その他:47,150
	通 信 運 搬 費	1,816,000	1,871,879	55,879	会報:1,038,963 切手葉書代:336,000 電信電話:113,589 その他:383,327
	設 備 工 事 費	240,000	441,000	201,000	インターネット
	什 器 備 品 費	240,000	0	▲ 240,000	
	事 業 費	15,945,000	8,199,211	▲ 7,745,789	総会費:249,450 講師招聘援助金:130,000 支部活動費:1,085,680 研究奨励費:1,415,914 在外研究援助金:600,000 新入生歓迎会:743,235 M4 奨励会:788,650 国試奨励会:802,65 M7 奨励会:73,500 夏期セミナー:492,800 セミナー講師謝礼:550,000 国試応援費:208,798 学生行事援助:236,200 烏帽子会賞:215,360 学生行事参加:70,000 支部祝儀:150,000 慶弔贈与:381,200 事業予備費:0
	会 議 費	1,600,000	1,884,154	284,154	理事会・会長懇話会:581,288 評議員会:465,165 各種委員会:18,000 その他:819,701
	公 租 公 課	70,000	71,000	1,000	県市民税:71,000
	雑 費	3,032,000	2,087,823	▲ 944,177	税理士報酬:31,500 渉外費:71,135 グッズ:35,720 学会寄付:600,000 記念事業:560,904 その他:788,564
	預 り 金 支 出	160,000	196,860	36,860	
	引 当 金 積 立	2,000,000	0	▲ 2,000,000	
	仮 渡 金	1,500,000	0	▲ 1,500,000	
借 入 金 返 却	0	1,000,000	1,000,000		
予 備 費	4,043,000	0	▲ 4,043,000		
	合 計	44,267,000	24,408,069	▲ 19,858,931	
	収 支 差 引	0	14,151,255	14,151,255	

平成 21 年度残金処分

残金額（収支差引額）	14,151,255 円
事業積立金積立	0 円
刊行物積立金	2,000,000 円
次年度繰越	12,151,255 円

平成 21 年度特別会計決算

	事業積立金	医学教育研究基金	刊行物積立金	合 計
前年度より繰越	100,136,502	3,875,570	5,010,433	109,022,505
本年度増加額	1,000,000	0	1,000,000	2,000,000
本年度受取利息	89,368	2,390	0	91,758
本年度減少額	▲ 10,000,000	0	▲ 294,401	▲ 10,294,401
本年度未決算額	91,225,870	3,877,960	5,716,032	100,819,862

平成 21 年度事業報告と平成 22 年度事業計画

項目	年度	平成 21 年度 事業計画	平成 21 年度 事業報告	平成 22 年度 事業計画	
		予算 (A)	実績 (B)	予算 (C)	C - A
① 会報の発行		2,700,000	2,943,012	3,250,000	550,000
② 総会の開催		200,000	249,450	200,000	0
③ 支部活動援助		1,550,000	1,215,680	1,550,000	0
④ 研究奨励賞		1,000,000	1,415,914	1,500,000	500,000
⑤ 在外研究援助		1,500,000	60,000	1,500,000	0
⑥ 学生対策		2,800,000	2,408,554	2,800,000	0
⑦ 白衣贈与		1,000,000	5,255	2,000,000	1,000,000
⑧ 国試対策費		2,000,000	1,251,598	2,000,000	0
⑨ 支部祝儀贈与		230,000	150,000	230,000	0
⑩ 学生行事援助		800,000	521,560	800,000	0
⑪ 慶弔贈与		300,000	381,200	300,000	0
⑫ グッズ作製		0	0	0	0
⑬ 会員名簿の発行		0	0	0	0
⑭ パニックマニュアルの発行		5,000,000	0	6,000,000	1,000,000
⑮ 奨学金緊急貸与		0	0	0	0
合 計		19,080,000	11,142,223	22,130,000	3,050,000

平成 22 年度収入支出予算

区分	科目	21 予算	21 決算見込	22 予算	22 年度予算摘要	22 予算-21 予算
収 入	繰越金	12,000,000	11,175,942	12,151,255		151,255
	会費収入	25,752,000	25,284,135	26,296,000	入会費:5,190,000 学年会費:4,446,000 年会費:16,529,000 準年会費:131,000	544,000
	協賛金収入	0	0	0	名簿発行なし	0
	手数料収入	235,000	107,250	0		▲ 235,000
	雑収入	120,000	52,920	120,000	グッズ売上ほか	0
	預り金収入	160,000	195,380	160,000	給与源泉徴収税	0
	積立金繰入	5,000,000	0	0		▲ 5,000,000
	仮受金	0	0			0
	借入金	1,000,000	1,000,000	0	借入不要	▲ 1,000,000
	合計	44,267,000	37,815,627	38,727,255		▲ 5,539,745
支 出	給与	4,177,000	4,602,870	4,570,000	職員 1 名、パート 2 名	393,000
	旅費	1,904,000	1,736,570	1,720,000	役員旅費他	▲ 184,000
	事務用品費	300,000	291,909	300,000		0
	印刷費	7,240,000	2,263,880	2,460,000	会報:2,100,000 その他:360,000	▲ 4,780,000
	通信運搬費	1,816,000	1,873,380	1,496,000	電信電話、会報、切手葉書ほか	▲ 320,000
	設備工事費	240,000	231,000	240,000	維持契約、その他	0
	什器備品費	240,000	0	240,000		0
	事業費	15,945,000	9,714,737	15,880,000	総会費、講師招聘援助費、支部活動費、研究奨励賞、 在外研究援助金、新入生歓迎会、M4 奨励会、国試奨励会、 M7 奨励会、M5 白衣贈与、国試応援費、支部祝儀贈与、 学生行事援助、慶弔贈与、事業予備費	▲ 65,000
	会議費	1,600,000	2,153,324	1,600,000	理事会、会長懇話会、評議員会、各種委員会、その他	0
	公租公課	70,000	71,000	70,000	法人県市民税:70,000	0
	雑費	3,032,000	2,448,415	3,032,000	税理士報酬、渉外費、寄付金、その他	0
	預り金支出	160,000	196,860	160,000	給与源泉徴収税	0
	引当金積立	2,000,000	0	2,000,000		0
	仮渡金	1,500,000	0	0		▲ 1,500,000
	借入金返却	0	1,000,000	0		0
予備費	4,043,000	0	4,959,255		916,255	
合計	44,267,000	26,583,945	38,727,255		▲ 5,539,745	
収支差引	0	11,231,682	0		0	

医局長・医長名簿 *○内の数字は卒業回

* 筑紫病院の※印は循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長
筑紫病院の内分泌・糖尿病、呼吸器内科については、平成 23 年 3 月 31 日迄の経過措置

(平成 22 年 10 月現在)

	医 局 長	病棟医長	外来医長
[福 大 病 院]			
腫瘍・血液・感染症内科	佐々木 秀 法	田 中 俊 裕 ^⑰	石 塚 賢 治
内分泌・糖尿病内科	明 比 祐 子	竹之下 博 正 ^⑳	明 比 祐 子
循環器内科	小 川 正 浩 ^⑭	佐 光 英 人 ^⑱	藤 見 幹 太 ^⑱
消化器内科	岩 田 郁 ^⑬	阿 南 章 ^⑱	竹 山 康 章 ^⑮
呼吸器内科	藤 田 昌 樹	内 野 順 治	原 田 泰 志
腎臓・膠原病内科	三 宅 勝 久	伊 藤 建 二 ^⑮	安 部 泰 弘 ^⑳
神経内科・健康管理科	馬 場 康 彦 ^⑳	津 川 潤	樋 口 正 晃 (神経)
〃			宗 清 正 紀 (健管)
精神神経科	田 中 謙 太 郎 ^⑮	吉 田 公 輔	永 井 宏 ^⑳
〃 (デイケア)			田 中 真 理 子 ^⑳
小 児 科	田 中 美 紀 ^⑰	井 手 口 博 ^⑱	森 島 直 美
消化器外科	山 内 靖	星 野 誠 一 郎	吉 田 陽 一 郎
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	濱 武 大 輔 ^⑳	今 給 黎 尚 幸 ^⑱	柳 澤 純
整形外科	佐 伯 和 彦 ^⑮	西 尾 淳 ^⑱	石 河 利 之 ^⑱
形成外科	大 山 拓 人 ^⑳	衛 藤 明 子	大 矢 浩 史
脳神経外科	岩 朝 光 利 ^⑰	竹 本 光 一 郎 ^⑳	東 登 志 夫
心臓血管外科	竹 内 一 馬 ^⑳	伊 藤 信 久	西 見 優
皮膚科	古 賀 文 二 ^⑳	伊 藤 宏 太 郎 ^⑳	森 竜 樹 ^㉑
泌尿器科	松 岡 弘 文 ^⑧	入 江 慎 一 郎 ^⑰	足 立 知 大 郎 ^⑳
産婦人科	小 濱 大 嗣 ^⑮	大 竹 良 子 ^㉑ (3 東)	永 川 健 太 郎 ^㉑
〃		植 田 多 恵 子 (3 北)	
眼 科	梅 田 尚 靖 ^⑱	小 沢 昌 彦 ^⑮	有 田 直 子 ^⑮
耳鼻咽喉科	宮 城 司 道 ^⑨	末 田 尚 之 ^⑰	山 野 貴 史 ^⑱
放射線科	藤 光 律 子 ^⑧	高 良 真 一 ^⑱	野 元 諭
麻酔科	香 取 清 ^⑬	平 田 和 彦 ^⑫	平 田 和 彦 ^⑫
歯科口腔外科	高 橋 宏 昌	瀬 戸 美 夏	梅 本 丈 二
病理部	久 野 敏		
臨床検査部	松 本 直 通 ^⑭		
輸血部	熊 川 み どり		
救命救急センター	喜 多 村 泰 輔 ^⑮	田 中 潤 一	
総合周産期母子医療センター		中 村 公 紀 ^⑮	
総合診療部	武 岡 宏 明 ^⑮	柏 木 謙 一 郎	鍋 島 茂 樹 ^⑬
東洋医学診療部	久 保 田 正 樹 ^⑭		
薬剤部			
臨床研修支援センター			
卒後臨床研修センター			
臨床工学センター			
[筑 紫 病 院]			
筑紫病院 (総医局長)	生 野 慎 二 郎 ^⑧		
循環器内科	※ 東 條 秀 明 ^⑰	久 保 田 和 充 ^⑱	三 好 恵 ^⑮
内分泌・糖尿病内科	工 藤 忠 睦 ^⑳	(工 藤 忠 睦 ^⑳)	(工 藤 忠 睦 ^⑳)
呼吸器内科	(永 田 忍 彦)	田 中 誠 ^㉑	赤 木 隆 紀 ^⑳
消化器内科・内視鏡部	長 濱 孝 ^⑰	光 安 智 子	久 部 高 司 ^⑰
小 児 科	吉 兼 由 佳 子 ^⑱	城 谷 吾 郎	鶴 澤 礼 実
外 科	三 上 公 治 ^⑬	永 川 祐 二 ^⑱	富 安 孝 成 ^⑳
整形外科	秋 吉 祐 一 郎	篠 田 毅 ^⑳	城 島 宏 ^⑭
脳神経外科	新 居 浩 平 ^⑳	相 川 博	相 川 博
泌尿器科	石 井 龍 ^⑮	平 浩 志 ^⑮	石 井 龍 ^⑮
眼 科	佐 伯 有 祐	佐 伯 有 祐	佐 々 由 季 生
耳鼻いんこう科	一 番 瀬 崇 ^⑱	一 番 瀬 崇 ^⑱	松 井 郁 ^㉑
放射線科	中 島 力 哉 ^⑭		
麻酔科	生 野 慎 二 郎 ^⑧		
病理部	原 岡 誠 司		
救 急 部	堤 正 則		

教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）

[平成 22.4.2 ~ 22.10.1]

区分	所属	資格	氏名	発令日	摘要
昇格	産婦人科	准教授	辻岡 寛 ^⑮	22.10.1	
	救命救急センター	准教授	松尾 邦浩 ^⑧	22.10.1	
	消化器外科学	准教授	田中 伸之介 ^⑤	22.10.1	
	消化器内科	講師	入江 真 ^⑬	22.10.1	
	腎臓・膠原病内科	講師	笹富 佳江 ^⑬	22.10.1	
	呼吸器内科	講師	内野 順治	22.10.1	
	整形外科	講師	佐伯 和彦 ^⑮	22.10.1	
	脳神経外科	講師	東 登志夫	22.10.1	
	心臓血管外科	講師	竹内 一馬 ^⑳	22.10.1	
	消化器内科学	講師	坂本 雅晴	22.10.1	
採用	筑紫病理部	講師	原岡 誠司	22.10.1	
	筑紫内分泌・糖尿病内科	教授	小林 邦久	22.10.1	
	脳神経外科	講師	上羽 哲也	22.10.1	
所属換	内分泌・糖尿病内科	講師	野見山 崇	22.10.1	
	消化器外科	講師	山内 靖	22.10.1	
	筑紫整形外科	講師	城島 宏 ^⑭	22.10.1	

平成 23 年 医学部医学科入学試験の要点

	A方式推薦	地域枠推薦	前期日程一般一次	前期日程一般二次
出願期間	平成 22 年 11 月 1 日(月) ～ 11 日(木)	平成 22 年 11 月 1 日(月) ～ 11 日(木)	平成 23 年 1 月 5 日(水) ～ 18 日(火)	
試験日	平成 22 年 11 月 28 日(日)	平成 22 年 11 月 28 日(日)	1 次： 平成 23 年 2 月 4 日(金)	2 次： 平成 23 年 2 月 15 日(火)
試験科目	英語、数学、面接、 調査書	英語、数学、面接、 調査書	英語、数学、理科、 小論文	面接、調査書
募集人員	25 人程度	10 人	75 人	
合格発表	平成 22 年 12 月 7 日(火)	平成 22 年 12 月 7 日(火)	平成 23 年 2 月 10 日(木)	平成 23 年 2 月 22 日(火)

福大医学部医学科を受験されるお子様のお名前をお教え下さい
 烏帽子会では毎年、福大医学部を受験される同窓生のお子様のお名前をお尋ねしております。大学によっては同窓生子女の合格者数が入学定員の半数に迫る大学もあるようですが、本学ではまだ 10 数名、入学定員の 10% 台に過ぎません。つきましては、色々の参考にしたいと考えていますので、お差し支えなければ受験されるお子様のお名前を下記あてお知らせ下さい。

TEL:092-865-6353 FAX:092-865-9484

E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会

追加合格

平成 23 年 2 月 22 日(火)の二次合格発表と同時に、追加合格予定者に追加合格予定順位が通知されます。その中から 3 月 31 日までに追加合格者を決定し、本人に通知されます。

正会員 75周年 寄付情報 1 (最終版)

No.	支部/回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1	111 七隈	1,300,000	1,600,000	1,600,000	300,000	200,000	450,000					400,000	60,000	245,000	230,000	350,000	360,000	280,000	80,000
2	112 筑紫病院	20,000	500,000	300,000	100,000	50,000	310,000				300,000			30,000		5,000			130,000
3	113 福岡	2,000,000	5,480,000	2,310,000	1,530,000	2,620,000	4,120,000	1,940,000	2,560,000	950,000	3,620,000	500,000	450,000			1,150,000	400,000	40,000	100,000
4	114 赤十字																		
5	115 北九州	50,000	1,950,000	1,000,000	1,410,000	1,250,000	1,120,000	1,050,000	1,830,000	1,300,000	700,000	510,000	220,000	650,000	300,000	300,000	400,000	180,000	
6	116 飯塚	100,000			120,000		500,000				300,000				100,000		50,000		
7	117 筑豊	150,000		2,000,000	300,000				200,000										
8	118 筑紫	1,050,000	300,000	300,000	300,000	300,000	600,000	300,000	300,000	300,000			370,000	300,000	10,000		100,000		400,000
9	119 朝倉	300,000		600,000			300,000	300,000											
10	120 筑後	780,000	800,000	350,000	1,500,000	400,000	300,000	400,000	400,000		600,000	50,000	620,000	800,000	810,000		520,000		20,000
11	130 佐賀	450,000	610,000	1,050,000	120,000	510,000	400,000	50,000	100,000	30,000	350,000	200,000	200,000		100,000		100,000	100,000	70,000
12	141 長崎	320,000	100,000	350,000		350,000	100,000	200,000	200,000	40,000	110,000			100,000			5,000		
13	142 佐世保			100,000	200,000	100,000	200,000	700,000	100,000	100,000				100,000		100,000	20,000		50,000
14	150 熊本	50,000			610,000	470,000	300,000	260,000	170,000	130,000	110,000	210,000					100,000	110,000	
15	160 大分	400,000		110,000		200,000	1,100,000	300,000	550,000	200,000	100,000	110,000	100,000						
16	170 宮崎	710,000	610,000	100,000	1,250,000	1,000,000	1,150,000	400,000	600,000		100,000	50,000							
17	180 鹿児島		110,000	100,000	210,000	170,000	500,000	50,000	110,000	140,000	10,000		500,000	50,000	100,000	10,000			320,000
18	190 沖縄			100,000				300,000	150,000	100,000									
19	200 中国	100,000	300,000	200,000		300,000	20,000	30,000	30,000	630,000	370,000	100,000	30,000	210,000		30,000			
20	220 広島	50,000	10,000			100,000			100,000	100,000		110,000	150,000	300,000	250,000		210,000	100,000	10,000
21	300 四国	30,000			10,000	200,000	50,000	20,000	100,000		100,000		300,000	10,000		100,000		50,000	
22	400 関西		200,000		40,000							100,000				50,000			
23	500 中部				100,000							50,000							
24	600 関東			30,000					100,000	10,000	110,000					130,000			
25	700 東北			50,000		20,000											30,000		
26	800 北海道								10,000										
27	外国																		
28	不明																		
29	合計	7,860,000	10,670,000	10,650,000	8,000,000	7,840,000	8,890,000	8,320,000	8,550,000	5,640,000	3,750,000	5,770,000	3,050,000	3,245,000	1,900,000	2,225,000	2,345,000	860,000	1,180,000
30	総人員 A	63	83	90	118	115	121	128	151	116	104	118	93	115	99	95	127	104	99
31	寄付人員 B	43	41	41	39	37	40	43	49	29	21	39	25	28	15	18	22	17	14
32	B/A(%)	68.3	49.4	45.6	33.1	32.2	33.1	33.6	32.5	25.0	20.2	33.1	26.9	24.3	15.2	18.9	17.3	16.3	14.1

● 正会員 75 周年 寄付情報 1 (最終版) ●

No.	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	合計	人数C	寄付数D	D/C (%)	支部 2
1	90,000	160,000	170,000	40,000	25,000	120,000	20,000	120,000	20,000	70,000		70,000	20,000		7,380,000	365	91	24.9	111 七隈
2			1,000		5,000	10,000	20,000			10,000	40,000	25,000			2,156,000	103	25	24.3	112 筑紫病院
3	10,000	30,000		70,000	10,000	300,000	50,000	20,000			400,000		10,000	100,000	33,090,000	684	138	20.2	113 福岡
4															0	20	0	0.0	114 赤十字
5	20,000			1,000,000						100,000			90,000	20,000	15,450,000	233	70	30.0	115 北九州
6											20,000				1,090,000	44	7	15.9	116 飯塚
7															2,750,000	36	6	16.7	117 筑豊
8													50,000		4,380,000	105	21	20.0	118 筑紫
9															1,800,000	21	6	28.6	119 朝倉
10	50,000	20,000			30,000						10,000		10,000		8,070,000	184	44	23.9	120 筑後
11	40,000														4,280,000	145	41	28.3	130 佐賀
12	100,000		10,000			10,000									1,795,000	110	19	17.3	141 長崎
13															1,680,000	44	14	31.8	142 佐世保
14					600,000					50,000		10,000		20,000	3,200,000	175	35	20.0	150 熊本
15	100,000	20,000				40,000									3,330,000	84	24	28.6	160 大分
16															5,980,000	79	25	31.6	170 宮崎
17	100,000				100,000						10,000				2,590,000	159	29	18.2	180 鹿児島
18															650,000	51	4	7.8	190 沖繩
19	10,000				20,000				1,000,000						3,350,000	99	20	20.2	200 中国
20					10,000	50,000		10,000							1,460,000	108	19	17.6	220 広島
21			100,000						30,000						1,100,000	54	14	25.9	300 四国
22									150,000		20,000				610,000	148	8	5.4	400 関西
23								10,000							170,000	53	4	7.5	500 中部
24	100,000		130,000							100,000	50,000	20,000	100,000		880,000	151	15	9.9	600 関東
25															100,000	13	3	23.1	700 東北
26															10,000	12	1	8.3	800 北海道
27															300,000	17	1	5.9	外国
28															0	25	0	0	不明
29	620,000	230,000	411,000	1,440,000	800,000	480,000	90,000	210,000	200,000	1,330,000	520,000	155,000	280,000	140,000	107,651,000				合計
30	105	109	94	96	93	90	94	102	99	95	112	97	91	106		3,322			総人員 A
31	15	12	9	9	10	7	4	15	3	9	8	11	7	4		684			寄付人員 B
32	14.3	11.0	9.6	9.4	10.8	7.8	4.3	14.7	3.0	9.5	7.1	11.3	7.7	3.8		20.6			B/A(%)

正会員 75周年 寄付情報2 (最終版)

支部	卒回	姓	名	75周年寄付	支部	卒回	姓	名	75周年寄付	支部	卒回	姓	名	75周年寄付	支部	卒回	姓	名	75周年寄付	支部	卒回	姓	名	75周年寄付													
七 限	1	朔	啓二郎	1,000,000	七 限	18	蒲池	紫乃	30,000	筑 紫 病 院	4	蓮尾	研二	100,000	福 岡	10	矢野	文良	50,000	福 岡	4	安藤	公英	300,000	福 岡	10	矢野	文良	50,000								
	1	林	英之	300,000		21	富田	健一	1,000		5	安藤	公英	300,000		11	案浦	美雪	300,000		11	案浦	美雪	300,000		11	石蔵	礼二	300,000	11	石蔵	礼二	300,000				
	3	大慈	弥裕	400,000		23	篠田	豊	5,000		24	矢野	孝直	10,000		5	中村	嘉男	500,000		5	中村	嘉男	500,000		5	中村	嘉男	500,000	5	中村	嘉男	500,000	5	中村	嘉男	500,000
	3	竹下	裕重	400,000		24	八尋	龍生	10,000		25	平井	孝直	10,000		5	古野	剛一	300,000		5	古野	剛一	300,000		5	古野	剛一	300,000	5	古野	剛一	300,000	5	古野	剛一	300,000
	3	廣瀬	伸一	400,000		25	吉田	亮	10,000		28	清川	光一	10,000		5	松本	信一郎	300,000		5	松本	信一郎	300,000		5	松本	信一郎	300,000	5	松本	信一郎	300,000	5	松本	信一郎	300,000
	3	岩崎	昭彰	400,000		21	北島	研二	50,000		29	丸山	誠代	10,000		5	松本	信一郎	300,000		5	松本	信一郎	300,000		5	松本	信一郎	300,000	5	松本	信一郎	300,000	5	松本	信一郎	300,000
	5	岩崎	昭彰	300,000		21	重松	研二	10,000		29	丸山	誠代	10,000		5	松本	信一郎	300,000		5	松本	信一郎	300,000		5	松本	信一郎	300,000	5	松本	信一郎	300,000	5	松本	信一郎	300,000
	5	岩崎	昭彰	200,000		21	三笠	裕美	100,000		29	丸山	誠代	10,000		5	松本	信一郎	300,000		5	松本	信一郎	300,000		5	松本	信一郎	300,000	5	松本	信一郎	300,000	5	松本	信一郎	300,000
	5	岩崎	昭彰	100,000		21	吉村	力	100,000		29	丸山	誠代	10,000		5	松本	信一郎	300,000		5	松本	信一郎	300,000		5	松本	信一郎	300,000	5	松本	信一郎	300,000	5	松本	信一郎	300,000
	6	森	重徳	300,000		22	村上	豪仁	10,000		30	富永	健一	5,000		6	大上	村精一郎	500,000		6	大上	村精一郎	500,000		6	大上	村精一郎	500,000	6	大上	村精一郎	500,000	6	大上	村精一郎	500,000
	7	小河	原悟	100,000		22	宮島	茂郎	30,000		30	富永	健一	5,000		6	大上	村精一郎	500,000		6	大上	村精一郎	500,000		6	大上	村精一郎	500,000	6	大上	村精一郎	500,000	6	大上	村精一郎	500,000
	7	安元	佐和	100,000		23	上田	秀一	5,000		30	三浦	聖高	10,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000
	8	継	仁	300,000		23	内藤	雅康	20,000		30	三浦	聖高	10,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000
	8	松岡	弘文	150,000		24	讀井	絢子	50,000		30	三浦	聖高	10,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000
	11	早田	哲郎	20,000		24	中村	友紀	10,000		30	三浦	聖高	10,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000
	11	松浦	伸一郎	30,000		24	フアン	ジェーン	50,000		30	三浦	聖高	10,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000
	11	松浦	伸一郎	200,000		24	榎	研二	10,000		30	三浦	聖高	10,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000
	11	吉永	康照	100,000		25	櫻井	静佳	10,000		30	三浦	聖高	10,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000
	12	篠原	徹雄	30,000		25	牧野	太郎	10,000		30	三浦	聖高	10,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000
	12	平田	和彦	30,000		26	伊藤	宏太郎	10,000		30	三浦	聖高	10,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000		6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000
13	香取	清	15,000	26	及川	美帆	20,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
13	玉置	正太	100,000	26	大田	拓人	10,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
13	笹玉	佳江	100,000	26	古賀	洋介	10,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
13	鯛島	茂樹	100,000	26	田中	和子	10,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
13	真山	崇	10,000	26	濱中	和子	10,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
14	金宮	毅	30,000	26	松嶋	悠	10,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
14	久保	正樹	100,000	27	森	竜樹	20,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
14	城島	宏	100,000	28	有村	忠聰	30,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
15	有田	直大	10,000	28	飯塚	久美子	10,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
15	小沢	昌彦	10,000	28	杉村	朋子	20,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
15	辻岡	寛	300,000	28	前原	都	10,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
16	喜多村	泰輔	50,000	30	佐藤	晋	10,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
16	杉	泰之	10,000	30	小野	澤久	10,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
17	原賀	勇壮	300,000	30	福永	篤志	50,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
17	入江	慎一郎	100,000	31	吉田	祐士	20,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
17	末田	尚之	50,000		吉田	隆文	20,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
17	田中	俊裕	50,000		吉田	隆文	20,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
17	田中	美紀	20,000		吉田	隆文	20,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
17	右田	博敬	10,000		吉田	隆文	20,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
17	安田	博生	50,000		吉田	隆文	20,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
18	梅田	尚靖	10,000		吉田	隆文	20,000	30	三浦	聖高	10,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000	6	倉岡	抄子	50,000						
18	西尾	英二	20,000		吉田	隆文	20,000	30	三浦	聖高	10,000	6																									

支部	卒回	姓名	75周年寄付	支部	卒回	姓名	75周年寄付	支部	卒回	姓名	75周年寄付	支部	卒回	姓名	75周年寄付	支部	卒回	姓名	75周年寄付
飯塚	1	馬郡良英	100,000	北九州	14	村田知子	300,000	筑後	1	大城昌平	300,000	佐賀	1	市原 蔵	100,000				
	4	田代研児	20,000		15	西明真	300,000		2	足達裕	80,000		2	重岡秀信	300,000				
	6	西園久彦	100,000		16	浅海透	300,000		1	下津浦康裕	100,000		3	東儀一良	100,000				
	4	内田泰彦	500,000		16	阿部亨	100,000		1	野田萬里	300,000		3	真條武彦	100,000				
	10	近藤泰淳	300,000		17	稲野靖枝	100,000		2	甲斐保	500,000		5	小笠原康二	300,000				
	16	多田勝	50,000		17	内田博子	10,000		2	中原俊高	100,000		7	山田輝城	20,000				
	30	加藤千明	20,000		17	桑原美保	10,000		2	三嶋池治	200,000		8	河内山高史	30,000				
		合計金額	1,090,000		17	武田研	60,000		3	浦池壽	300,000		9	水津貫	30,000				
		支部総数(A)	44		19	中西幸子	20,000		3	木附久雄	50,000		9	新田佳示	600,000				
		納入者数(B)	7		22	吉水一郎	1,000,000		4	津川和孝	300,000		10	船津春美	50,000				
		B/A	15.9%		28	山門健	100,000		4	浅村和孝	300,000		10	舩津春美	300,000				
	筑	1	古賀哲二		100,000	31	川畑咲子		50,000	4	松行眞門		300,000	10	三尾母孝恵	20,000			
		1	松本直樹		50,000	31	塚本雅仁		40,000	4	渡辺大介		300,000	11	藤山理香	30,000			
		3	吉本直樹		2,000,000	32	矢野雅也		20,000	4	梯洋子		400,000	12	西崎優子	10,000			
		8	阿部由利		200,000		支部総数(A)		233	7	山川郷子		300,000	13	廣田修	200,000			
		14	大野哲二		100,000		納入者数(B)		70	8	浅倉敏明		300,000	15	竹尾善文	30,000			
			合計金額		2,750,000		B/A		30.0%	10	衣笠哲史		100,000	19	奥村剛清	10,000			
			支部総数(A)		36	1	藤田晃		100,000	10	坂里芳孝		300,000	23	山田潤	20,000			
			納入者数(B)		6	2	松屋直樹		220,000	10	坂本宏一郎		300,000	28	河内啓一郎	1,000,000			
			B/A		16.7%	2	今田直也		100,000	11	久富孝敏		20,000		合計金額	3,950,000			
		豊	1		高良由貴夫	300,000	3		楠本泰博	300,000	11		久富孝敏	30,000		支部総数(A)	99		
			3		杉山正治	300,000	3		中村美貴子	50,000	12		田中達朗	300,000		納入者数(B)	20		
			3		田庸一	300,000	6		笹川初代	50,000	12		長井健祐	20,000		B/A	20.2%		
			6		古林修一	300,000	6		哲翁和博	300,000	12		松岡由香里	300,000	1	世戸薫男	300,000		
			7		古賀学	300,000	7		伊崎祐介	100,000	13		堀岡孝明	300,000	1	永瀬浩一	100,000		
	8		東島正		300,000	8	立木均		100,000	13	徳丸久子		100,000	1	森久英	50,000			
			合計金額		1,800,000	8	藤井正博		100,000	13	林亜紀		100,000	2	池田久雄	100,000			
			支部総数(A)		21	9	詫摩和彦		10,000	13	宮城千里		300,000	2	小島直樹	300,000			
	倉		納入者数(B)		6	9	立川隆義		30,000	14	江本玄		10,000	2	副島寛	100,000			
			B/A		28.6%	11	高岸有子		100,000	14	菊池陽介		300,000	2	内藤博文	10,000			
1		城戸正喜	300,000	11	濱崎宏明	10,000	14	永江隆	100,000	2	福岡英信	100,000							
1		権藤英資	50,000	13	村上正彰	100,000	14	松永斉	350,000	3	池田悟	50,000							
1		齋村正清	300,000	16	重松淳哉	5,000	14	森眺	50,000	3	大隈良成	100,000							
1		久富清	300,000	19	藤原靖子	100,000	16	木山雅晴	20,000	3	平川俊彦	300,000							
1		箕田薫	100,000	21	六倉和生	10,000	16	牟田仁彦	300,000	3	藤田房生	300,000							
3		崎村桂子	300,000	26	山口東平	10,000	16	安武正陽	200,000	3	諸江一男	300,000							
筑紫	1	権藤英資	50,000		合計金額	1,795,000	18	西村拓	20,000	4	今村達也	100,000							
	1	齋村正清	300,000		支部総数(A)	110	19	藤本好史	50,000	4	松尾直裕	20,000							
	1	久富清	300,000		納入者数(B)	19	20	吉田まり子	20,000	5	坂本直巨	100,000							
	1	箕田昌彦	300,000		B/A	17.3%	23	内藤美紀	20,000	5	徳永剛	310,000							
	8	眞足俊明	300,000	3	野原薫	100,000	23	藤吉直樹	10,000	5	廣岡満	100,000							
	9	眞足俊明	300,000	7	知念徹	300,000	29	三嶋すみれ	10,000	6	緒方周	200,000							
	12	今里栄二郎	50,000	8	照屋勉	150,000	31	林秀一郎	10,000	6	桐野良二	50,000							
	12	桑原元高	10,000	9	玉正人	100,000		合計金額	8,070,000	6	古賀博美	50,000							
	12	呉義憲	300,000		支部総数(A)	650,000		支部総数(A)	184	7	高原和秀	100,000							
	13	天々瀬寛信	300,000		納入者数(B)	51		納入者数(B)	44	7	市原次郎	10,000							
	14	池田耕一	10,000		B/A	4		B/A	23.9%	7	蒲地紳一郎	10,000							
	16	池上浩規	100,000	12	古賀一吉	100,000		合計金額	7.8%	7	野野正弘	10,000							
	16	大久保正一	400,000	12	陣林伯禎	20,000		支部総数(A)	4	7	横尾大輔	20,000							
	31	吉原友鶴	50,000	13	立川正裕	100,000		納入者数(B)	4	8	中島久美子	100,000							
	合計金額	4,380,000	13	平川正代	50,000		支部総数(A)	51	9	宇都宮至	20,000								
	支部総数(A)	105	13	山浦智子	100,000		納入者数(B)	4	9	古市賢二	10,000								
	納入者数(B)	21	13	山道光聡	100,000		B/A	7.8%	11	古賀賢二	50,000								
	B/A	20.0%	13	和田聡	100,000			4	11	脇山哲史	300,000								
									12	池田信博	100,000								

支部	卒回	姓 名	75周年寄付	支部	卒回	姓 名	75周年寄付	支部	卒回	姓 名	75周年寄付	支部	卒回	姓 名	75周年寄付	支部	卒回	姓 名	75周年寄付
佐	12	加藤 博彦	100,000	大	8	岩男 裕二	300,000	鹿	8	宮本 純治	10,000	四	2	原 規巳	100,000	国	3	小田島 優子	30,000
	14	酒井 正一郎	100,000		9	山本 親吉	60,000		9	吉 幸夫	100,000		4	小山 雅也	10,000		11	河瀬 晴彦	50,000
	16	山田 昇平	100,000		8	赤城 哲哉	30,000		10	鈴木 俊二	100,000		5	鈴木 俊二	100,000		22	吉田 健一郎	10,000
	17	山崎 圭	100,000		9	市丸 壽彦	100,000		11	別當 尚	100,000		6	古川 浩	20,000		26	中浦 淳	10,000
	18	久間 文章	50,000		10	師井 七生	110,000		11	佐々木 七生	100,000		7	濱崎 寛	20,000		合計金額	170,000	
	19	平松 宏樹	20,000		11	小野 隆宏	10,000		12	豊田 徳也	100,000		8	岩本 正博	100,000		支部総数 (A)	53	
	19	久保田 明子	10,000		12	後藤 三晴	100,000		13	藤岡 靖也	10,000		9	赤井 護	100,000		納入者数 (B)	4	
	19	久保田 修平	10,000		16	石田 菜穂子	100,000		14	浮田 祐美子	100,000		10	重川 浩司	300,000		合計金額	7.5%	
	合計金額	4,880,000	19		永嶋 智成	100,000	17		木下 晶子	100,000	11		山内 紀子	10,000	支部総数 (A)		5980,000		
	支部総数 (A)	371	20		武井 雅典	20,000	17		関 美穂	10,000	12		松浦 一平	100,000	納入者数 (B)		23,500,000		
	納入者数 (B)	39	26		宗像 光輝	40,000	23		白川 祐一	600,000	13		高橋 幸子	50,000	合計金額		1,710,000		
	B/A	10.5%	合計金額		3,330,000	28	藤山 俊一郎		50,000	合計金額	1,100,000		15	小泉 幸司	100,000		支部総数 (A)	76,461,000	
	1	見玉 芳久	10,000		支部総数 (A)	84	森田 悟		10,000	納入者数 (B)	1,100,000		21	青見 賢明	30,000		納入者数 (B)	107,651,000	
	1	野崎 藤子	300,000		納入者数 (B)	24	山 城由莉		20,000	合計金額	2,590,000		27	合計金額	1,100,000		支部総数 (A)	2,532,134	
	1	米田 れい子	50,000		28.6%	合計金額	28,6%		合計金額	3,200,000	支部総数 (A)		159	支部総数 (A)	1,100,000		納入者数 (B)	710,601	
	1	三股 俊夫	300,000		3	北川 雪子	100,000		納入者数 (B)	35	納入者数 (B)		29	納入者数 (B)	54		合計金額	7,000,000	
	2	白石 正浩	10,000		4	山川 裕	100,000		B/A	20.0%	B/A		18.2%	B/A	14		合計金額	3,942,735	
	2	照屋 信博	100,000		4	山崎 恵三	100,000		2	山下 博	10,000		合計金額	18.2%	合計金額		10,000,000		
	2	野田 省治	100,000		6	池永 英恒	100,000		2	山下 互	100,000		支部総数 (A)	108	支部総数 (A)		300,000		
3	宮田 純一	400,000	7	富田 春三	100,000	3	柴田 邦彦	100,000	納入者数 (B)	19	納入者数 (B)	300,000							
3	飯田 博幸	100,000	8	久保 次郎	600,000	4	萩原 隆二	100,000	B/A	17.6%	B/A	5.9%							
4	飯田 寛	150,000	8	吉本 正彦	100,000	4	橋口 雅尚	100,000	1	太田 明	30,000	合計金額	100,000						
4	河野 通孝	1,100,000	9	野元 淳子	100,000	4	春山 勝郎	10,000	4	小山 雅也	10,000	支部総数 (A)	100,000						
5	中山 郁男	1,000,000	13	楠本 隆	100,000	5	篠原 龍彦	20,000	5	鈴木 俊二	100,000	納入者数 (B)	100,000						
5	児玉 芳知	100,000	15	松村 雅人	100,000	5	高江 政伸	50,000	6	高橋 悦司	100,000	合計金額	100,000						
6	佐井 伸男	50,000	16	山内 秀彦	20,000	5	恒吉 礼三	100,000	7	濱崎 寛	20,000	支部総数 (A)	100,000						
6	前田 正存	1,000,000	18	重川 誠二	50,000	6	潤田 裕二	300,000	8	岩本 正博	100,000	納入者数 (B)	100,000						
7	岸 重雄	300,000	22	宇野 英明	10,000	6	鬼丸 郷子	100,000	10	赤井 護	100,000	合計金額	100,000						
7	黒木 重雄	100,000	合計金額	1,680,000	6	林田 郷子	100,000	12	重川 浩司	300,000	支部総数 (A)	100,000							
8	児玉 久美子	100,000	支部総数 (A)	44	7	下野 健治	50,000	13	山内 紀子	10,000	納入者数 (B)	100,000							
8	岐島 哲郎	300,000	納入者数 (B)	14	8	有馬 知子	10,000	18	瀧川 謙治	20,000	合計金額	300,000							
8	平野 哲也	100,000	B/A	31.8%	9	王谷 英仁	120,000	18	瀧崎 喜興志	300,000	支部総数 (A)	300,000							
10	富田 明彦	100,000	1	原 邦夫	50,000	9	村永 美幸	20,000	19	中目 和彦	100,000	納入者数 (B)	100,000						
11	名越 敏郎	50,000	4	大國 知之	150,000	10	小畑 博隆	10,000	23	上村 徳代	100,000	合計金額	100,000						
22	大久保 重明	10,000	4	権頭 博	100,000	12	小牧 伸一郎	100,000	30	上村 徳代	100,000	支部総数 (A)	100,000						
合計金額	4,880,000	4	白水 茂輝	50,000	12	小牧 伸一郎	100,000	合計金額	2,590,000	合計金額	2,590,000	納入者数 (B)	100,000						
支部総数 (A)	371	4	宮竹 聖彦	100,000	13	岡村 義和子	50,000	支部総数 (A)	159	支部総数 (A)	1,100,000	納入者数 (B)	100,000						
納入者数 (B)	39	4	渡邊 亨	100,000	14	小田代 晃治	100,000	納入者数 (B)	29	納入者数 (B)	1,100,000	合計金額	100,000						
B/A	10.5%	4	角返 英寛	20,000	15	海江田 衛	10,000	B/A	18.2%	B/A	25.9%	合計金額	100,000						
1	江浦 陽一	100,000	5	大堂 孝子	100,000	18	瀧川 謙治	20,000	合計金額	1,100,000	合計金額	100,000							
3	埴木 寛一	300,000	5	大堂 孝文	100,000	18	瀧崎 喜興志	300,000	支部総数 (A)	1,100,000	支部総数 (A)	100,000							
3	増井 玲子	100,000	5	片岡 泰文	200,000	19	中目 和彦	100,000	納入者数 (B)	54	納入者数 (B)	100,000							
5	若尾 忠	100,000	5	前田 毅	50,000	23	上山 記代	100,000	合計金額	1,100,000	合計金額	100,000							
6	井上 登生	500,000	6	緒方 健一	100,000	30	上村 徳代	100,000	支部総数 (A)	1,100,000	支部総数 (A)	100,000							
6	中村 英助	300,000	6	外山 あつ子	100,000	合計金額	2,590,000	合計金額	2,590,000	合計金額	1,100,000	納入者数 (B)	100,000						
7	矢野 良雄	100,000	7	池田 大猷	100,000	支部総数 (A)	159	支部総数 (A)	1,100,000	支部総数 (A)	1,100,000	納入者数 (B)	100,000						
7	矢田 公裕	100,000	7	東 景二	100,000	納入者数 (B)	29	納入者数 (B)	54	納入者数 (B)	14	合計金額	100,000						
7	山下 雄二郎	100,000	7	安野 嘉郎	60,000	B/A	18.2%	B/A	14	B/A	25.9%	合計金額	100,000						

職員 47名
 人員 61名
 入澤 6名
 その他卒業生 570名
 684名
 7.17回生
 9回生
 12回生
 284名
 同窓会寄付分 10,000,000
 寄付総額 121,593,735
 寄付件数 968件
 29.1%



(中央の十字型の建物が従来の病院)

編 集 後 記

平成22年秋号の烏帽子会報をお届けします。会報作成にあたりましては、関係部署の方々にご協力くださいまして誠にありがとうございました。

福岡大学病院「新館」は平成23年1月からの開院と決まり、平成22年11月27日に福岡大学病院新館竣工記念式典・祝賀会が予定されており、医学部、病院そして同窓会が一体となって新しい福岡大学病院が生まれようとしています。

同窓会の皆様のご寄付には大変感謝しております。今後は、会報にも福岡大学病院新館の情報なども含め、烏帽子会報を同窓会の皆様の為に少しでもお役に立てるように充実させていきたいと考えております。これからも皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

8回生 岩隈昭夫 (広報担当理事 福岡リハビリテーション病院)

烏帽子会会報第49号

発行日 平成22年11月15日
発行人 高木 忠博
編集人 大慈弥裕之

発行所 〒814-0180
福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話 092-865-6353 (直通)
092-801-1011 (代表)
内線 3032
FAX 092-865-9484
E-mail: eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所 ロータリー印刷(株)
福岡市中央区長浜2-1-30
電話 092-711-7741
FAX 092-711-7901